

鹿屋連絡委員會概況報告書

(自昭二〇八二六至昭二〇九三〇)

目次

- △ 經過概要
- 一 鹿屋進駐軍地域警備狀況
- 二 通信設備狀況
- 三 陸軍關係折衝経緯、概況
- 四 土木關係
- 五 勞務供給概況
- 六 資材供給經過概要
- 七 通譯事務概況
- 八 輸送事務概況
- 九 衛生・間接連絡經過概要
- 〇 食糧關係

0114

RA'-0108

0090

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

經過概要

八月二十七日十二時草鹿中將連絡委員長トシテ來任シ委員會設立ニ着手ス

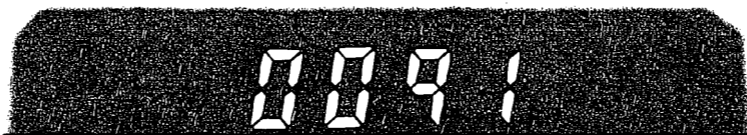
九月一日ニ至リ通信院運輸陸軍海軍外務大藏内務閣僚各省、委員集合終了シ本格的ニ活動ヲ開始スルニ至リタルモ、同委員會ニ於テハ空襲、為、通信交通全ク杜絶シ加フルニ戰災及風害ニヨリ荒廢甚シク且聯合運進駐ニヨル民心ノ動搖著シク勞力資材、集中極メテ困難ナル惡條件下ノ當地ニ於テ聯合軍ノ進駐ニ支障ナラシムヘク居住施設、車輛準備飛行場整理、揚陸道路ノ地均、標旗設置警備隊編成等ニ便シテ努力シ九月一日ニ概ネソノ準備ヲ整ヘタリ

ハ一應之ヲ見合ハスコトニ決定セリ

九月三日八時四五分閣僚各委員飛行場ニ進出待機セルモ豫定時刻十時ニ至リテモ先遣隊飛行機來着セズ十三時三十分漸ク先遣隊飛行機カラスニ機着陸指揮官シリシ大佐他士官七下士官兵六到着陸空海空陸軍海軍各代表紹介後直チニ要求書ヲ交付シ飛行場、揚陸場、鹿屋地区全般ニ分レ現地視察ヲ開始シ十五時一應視察ヲ終了飛行場ニ歸着、上要求事項ニ対スル回答質疑應答ヲ開始シ十六時三十分飛行機ニ機ニ大佐二名塔乗シ沖繩へ報告、為歸還セリ尚海上ニ於テハ此、日七時三十分頃ヨリ進駐軍掃海艇六隻及駆逐艦一隻鹿兒島灣口ヲ掃海シ十一時三十分頃高須古江海上ヲ行動、上南下シ當夜山川港沖ニ假泊セリ

九月四日米軍進駐状況、如シ

(1) 空軍 拂曉ヨリ空輸開始輸送機八十機降着ス



0116

回海上

九時LST六隻駆逐艦二隻高須沖ニ進入シ十六時ヨリ接岸揚陸セリ夜、外沖合ニ掃海艦六隻碇泊ス

九月五日、昨日ニ引續キ空海ヨリ進駐續行シ進駐兵力凡ソ三五〇名ト稱ス

コノ日連絡委員會、組織ニ付検討セラレタ結果軍ノ將來性ヲ考慮シ従来軍ヲ主トシテ組織セラレタ委員會ヲ漸次官制ヲ主トスル如ク根本的ニ改正スルニ意見一致シ其が具體的打合ヲナセリ

九月七日頃ヨリ米軍進駐ニヨリ退避シアリシ住民(主トシテ婦女等)

漸次歸宅ヲ始メ九月九日ニ至リ志江ハ約九割高須ハ約五割鹿

屋市街ハ約六割歸宅ス

九月十五日ヨリ米軍ノ要求ニ基キ小火器ヲ引渡ヲ開始シ順調ニ進捗

シツアリ

九月二十日冒中央氣象表ヨリ高田技師他三名ノ氣象関係者到着シ飛行場内ニ事務所ヲ置キ觀測事務ニ従事スルコトナレリ

九月二十八日新任委員長山路公使着任アリ二十九日前委員長

海軍中將草鹿龍之助トノ事務引継ヲ終了ス

九月三十日草鹿前委員長並ニ經理関係ヲ除ク海軍関係者全員

引揚ヲ終ヘ現在ニ至ル

以上各部ニ屬セザル主要經過ヲ述ベタルモ各部ニ屬スル經過概要

別紙、通リナリ

鹿屋進駐軍地域警備状況

一 警備概況

鹿屋進駐地域に於ける警備概況は、頭初警察警備外陸軍憲兵海軍保安隊、三機関ヨリ成り相互連絡協力シテ警備ニ當リ、ソノアリタルが軍復員ニ伴ヒ軍警備概況ハ九月末迄ニ全員解散ニ爾後ハ警察警備ノミテ全警備ヲ實施スルコトナレリ

二 警察警備機構

鹿屋進駐地域に於ける警備概況は、頭初警察警備外陸軍憲兵海軍保安隊、三機関ヨリ成り相互連絡協力シテ警備ニ當リ、ソノアリタルが軍復員ニ伴ヒ軍警備概況ハ九月末迄ニ全員解散ニ爾後ハ警察警備ノミテ全警備ヲ實施スルコトナレリ

(一) 特別警備本部

警察署に設置シ、縣全般ニ關スル警備ヲ指揮統轄ス

(二) 鹿屋進駐地警察署

鹿屋市に設置シ、進駐軍ニ付、ヤマト方面ト連絡ヲ緊密ニシ、併

(1)

而指揮命令ヲ迅速徹底ヲ圖ル爲メ、地本部長、進駐地域内及同外廓地に警察署長又ハ警察署警備大隊長ヲ指揮ス

(三) 警察警備隊

鹿屋市に設置シ、進駐軍ニ付、ヤマト方面ト連絡ヲ緊密ニシ、併

シム

(四) 警察署

地域内所轄警察署ハ、鹿屋警察署ニシテ、地域外所轄ニ志布志、高山、大根占、無水、四警察署アリ、テ本署ハ、警察署行政ヲ掌シ、進駐軍警備ニ當リ、ソノテリ

三 警備員配置及編成 (九月二日現在)

(一) 警察署警備地本部長

本部長 地方警視 河内 岩 夫

部員

警備情報班 中野警部外 六名
現地連絡班 上野警部外 一〇名

(四) 警察警備大隊

大隊長地方警視木下貞良 隊員二〇〇名ニシテ大隊本部及四個中隊ニ編成ス
(註) 鹿屋地区ニ於テハ警察警備大隊進駐須切

- 福岡縣 七六名
- 大分縣 三五名
- 長崎縣 三五名
- 宮崎縣 三〇名
- 熊本縣 四五名
- 佐賀縣 三〇名
- 計 二五一名

九州各縣ニ應接警察官ヲ求メ三百余名ヲ以テ編成シアリ
シルモ各縣ニ對スル進駐開始ノ關係ニ應接警察官ハ長崎縣九月十八日福岡縣九月二十一日其他各縣ハ十月一日ニ夫々發隊セシメ爾後ハ本縣故警察官ハニ切替タリ尚本縣ニ於テハ目下新任警察官増員募集中ニシテ近ク常時三百名程度ノ警備隊員ヲ鹿屋地区ニ駐セシムルヲ定メテ

(五) 警察署

進駐地ニ所轄鹿屋警察署及外廓ノ四警察署ニ對シテハ従來ノ定員ヲ充實スルト共ニ臨時應接警察官(鹿屋二十名外四署ハ十名宛)ヲ配置シ警備ニ當ラシメタルガ縣外應接警察官ノ復隊ノ為ニ警備隊ヲ充實スルノ要アリテ之等各警察署ノ臨時應接警察官ハ警備隊ニ編入シタル結果警察署ニ於テハ應接警察官

(四) 警備實施要領

ハ現在ノ處一名モナシ

(一) 巡察員ヲ設ケ視察内偵ヲ實施ス

(二) 檢向所ヲ設ケ見張檢向ヲ實施ス

(三) 進駐地区内ニ於ケル火藥・爆薬・其他危險物件ノ讓渡運搬使用ノ所持ヲ禁止スルト共ニ民間所持ノ銃器類(小銃・拳銃・短銃)ハ既ニ警察署ニ回收シ進駐軍側ニ提出シアリ

但ニ猟銃ハ存母狀態安定スル迄保管スルヲ定ナリト

(五) 事故發生狀況

進駐以來、越後、向、重大ノ事故ノ發生ナク平穩ニ推移シ

ソノアリ十月二日迄ニ於ケル事故

(1) 當方被害狀況

西陸下ノ射撃射殺手 一

住居侵入	四
暴行	四
強奪	三
酒類	九
力剣	一
時計	三
鶏	三
酒類	四
刀剣	三
國旗	二
遊興	二
進駐軍側被害狀況	三
盜難	三

(註)進駐軍飛行場非常ニ出役シタル高方若出入夫ダ場
内ニアリタル進駐軍ノ石炭煙草類ヲ數個宛ニ切取シタル
モノ手算

(ハ) 事故ニ對スル措置

進駐軍ニシテ高方ノ被害ニ對シテハ其程度申入レテ爲シ
下リ之ニ對シテハ進駐軍側ニ於テモ既ニ犯人ヲ檢舉シ被害金
高方高方ニ還付シ來タルモノモ數件アリ

次ニ進駐軍側ニ對スル加害行為ハ高方警察ニ於テ犯人ノ
措置ヲ爲シテアリ

(ニ) 民心ノ動向

進駐軍初ニ一般ニ極度ノ恐怖感ヲ抱キ地内ノ住民ニ居住部落ヲ
離レ山岳地帯ニ避退セルモノ多カリシ日時ノ經過ト共ニ進駐
軍ノ動靜モ明ラカトナリ民心安定ニ數日ヲ出スニ於テ全部

(女)

(七) 警備上注意事項

カ自家ニ飯宅シ夫クノ業務ニ從事シタルガ樂觀的傾向ニ
伴ヒ却テ婦女子ノ學示服裝等ニシテ進駐軍側ニ際ラ與ヘ
ルガ如キモノサハ散見シ殊ニ數日來進駐軍ノ自由外出ヲ許サ
レシメタル結果乘機ニテ婦女子ノ外出等ニ指導ト人々ニ注
意ヲ要スルモノアリ尚進駐軍中ニ下リテ飲酒酌町シ人家ニ
無断侵入又ハ酒類提供或ハ遊興ヲ強要シタルトモアリ一
部民衆ニハ不安ヲ抱キタル状況ナリ次ニ鹿屋市ニ於テハ
市長主催ノ下ニ各國民學校區域毎ニ進駐軍將校氏政部長
官スデインク中佐ノ講演會ヲ開催シテアリ相率ニ民心安
定ニ及テ警備ヲ與ヘンアリ

進駐地内ニハ多數軍需品ヲ格納シタル倉庫棟穴壕アリ
之等ハ全部聯合軍側ヲ引渡スヘキモノニシテ從來軍警備ニ

依リ之レガ警ラ戒ニ由リツニ下リタルモ今後ハ警ラ察警備ニ依リ確
保スルコトハナルタルガ軍警備ニ比シテ年々十山附近上盜難故
逸ハ虞レアルヲ以テ十分ナル注意警ラ戒ヲ要ス

以上

0121

RA'-0108

0097

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

二 通信設備狀況

(一) 委員會設立前後、通信設備狀況

- イ 空襲被害ノ為メ當地ヨリ鹿兒島市及縣外へ、電信電話回線全部不通ナリシ所進駐軍ニ伴フ委員會設置、報ニ應急通信機因設備ノ要アル為海軍ヨリ無線通信機若類ヲ讓受臨時無線通信所(鹿屋郵便局分室ト假稱ス)ヲ委員會本部附近ニ設置シ鹿兒島、熊本、福岡及中継ニヨリ東京方面へ通信可能トセシメ委員會用電報ヲ取扱フ(八月末日)
- ロ 進駐軍先遣隊未駐用航空機ノ安全着陸ニ備フル為対航空無線通信設備方マソカーサー司令部ヨリ命アリタルニ付工事及手配完了ス(八月末日)
- ハ 委員會設置ニ伴フ關係方面トシテ連絡用ニ備ヘ委員會本部ニ電話機二個増設ス(八月末日加入申込未提出)

(二) 進駐後ノ狀況

- イ 佐世保地区へ進駐ニ関係シ當進駐軍本部ト討佐世保本部間ニテ外専用電話回線作成方マソカーサー司令部ヨリ命アリ直ニ進駐軍本部、屋内工事ニ着手セシモ十七日暴風ニテ市外回線不通ナリ鏡意復旧ニ努メ十月一日完成ヲ見ル
- ロ 鹿屋基地、氣象ヲ進駐軍航空機へ無線放送ニ為進駐区域内ニ臨時氣象觀測所設置サレ當地ト福岡氣象臺ト間ニテ外専用電信回線作成、事トナリ目下手配中

(三) 現在通信可能ノ地域(十月三日午前七時)

- イ 電話 福岡、熊本、宮城、伊集院
- ロ 無線 (委員會発電報ニ限リ) 福岡、熊本、大分、宮崎、長崎

ニ後ニ更ニ
聯合軍ハ
有係電信
送電方事情
一)

小倉、鹿兒島、其他多少ノ運送(中継ヨリ為)アルニ東京
及全國可能

○
○
○
○

0123

RA'-0108

0099

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

三 陸軍関係折衝経緯、概況

(一) 鹿屋聯合軍進駐地域及其、周辺一帯、治安警備ハ進駐軍トノ紛争惹起ノ絶対防止ヲ主眼トシ當初鋒集團之ヲ擔當シ特ニ進駐地域ハ鹿屋海軍警備指揮官ヲシテ海軍保安隊、陸軍憲兵ヲ併セ指揮セシムルト共ニ警察側ト緊密ニ協力セシメ以テ治安警備ニ遺憾ナキヲ期セリ
爾後治安情勢ノ良況ニ推移セルニ伴ヒ九月十二日以降鋒集團ハ右任務ヲ解除セラレ更ニ九月下旬ニ入ルヤ憲兵次テ保安隊夫々警備ノ任ヲ解除セラルルニ至リ十月以降治安警備ニ関シ其悉ク警察側ノ手ニ移行セシメラルルコトナレリ
(二) 聯合軍ハ進駐ニ際シ特ニ其ノ進駐地域ニ於テハ我が方ノ無武装化並ニ進駐地域周辺ニ於テハ我が方ノ戰備撤收ノ状態ニ對シ関心極メテ大ニモノアリシカ本件ニ関シハ左記ノ如ク我が方ヨリ

積極的ニ情報ヲ提示スルト共ニ進駐軍側ノ危惧ニ基ク申入レ要求等ニ對シハ即時善處ノ手段ヲ採リ逐一其ノ杞憂ヲ一掃セシメ何等難題ヲ生起スルコトナク現在ニ及ヘリ

左記

1. 進駐軍先遣隊ニ對シ鹿屋地区及其ノ周辺地域ノ軍隊ノ戰備撤收ノ状況並ニ治安ノ現況ト之カ樂觀的見込ニ関シ説明
右説明ニ基ク先遣隊ノ希望ニヨリ進駐地域ニ於テハ我が方警備部隊ニハ彈藥ヲ携行セシメハコトト決定セリ
2. 九月十三日進駐軍ヲ申入レヨリ進駐地域内ノ小火器類及同彈藥一切ヲ聯合軍側ニ正式ニ引渡スコトニ決定シ約十日間ニ亘リ之ヲ完了ス
3. 九月十五日進駐地域内ノ名主附近ニ於テハ我が方遺棄爆彈及彈藥ノ處理ニ関シ我が方ヨリ危害防止上ノ好意的見込ニ基キ

0125

(三) 積極的ニ情報ヲ提供シ快諾セシム
 鹿屋進駐軍其ノ進駐地域外ニ於テ我ガ兵器彈藥類ノ全面
 的引渡シニ関シテハ之ヲ權限外トシ又其ノ引渡シ要領等ニ関スル何
 等ノ情報ヲ提示シアラサルトコロ九月下旬ニ入り我ガ監視保管
 中ノ兵器集積所ニ對シテ一部兵器ノ不法引渡シ強要事件散発
 セルニ至リ我ガ方ヨリ事由ヲ具シ之ガ善處方要望セシ結果進
 駐軍側責任者ハ痛ク遺憾ノ意ヲ表シ此種事件再發防止
 タメ嚴重取締リシ處置ヲ講スルト共ニ一部ノ特定兵器(拳銃
 同彈藥、軍刀、眼鏡)ヲ豫メ正式ニ引渡シ又措置ヲ採ルコトナリ
 尚志布志灣岸ニ於テ引渡用兵器彈藥類、風水害後ニ於ケ
 ル手入作業ヲ九月末ヨリ約一週間我ガ兵力ヲ以テ實施スル旨
 通告セトコロ進駐軍側之ヲ好意ヲ以テ承諾セリ

RA'-0108



外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

四 土木関係

九月九日 聯合軍ヨリ左記ノ要求アリシ

(一) 鹿屋 古江間(十軒) 古江 高須間(八軒) 高須 飛行場間(五九軒)ノ
道路補修ヲナスコト

之ニ対シテ法ハ鹿屋 古江間ハアスファルト道路ニテ不敷取工砂
ニテ補修シ アスファルトヲ以テ本格的補修ヲナシ 其他ハ砂利道ナ
ルヲ以テ碎石、土ヲ入レ補修ス

(二) 高須 海岸ニ橋樑新設ノ要求アリ之ニ対シ水深四呎(満潮時)トシ
形状ハ前巾三〇呎後巾五〇呎長三三呎ハ橋形トシ取付道路ヲ設
ク 右工事ハ共ニ直チニ着手進捗中ナリ

水道工事ハ進駐直後ヨリ必要箇所ノ修理又ハ新設ヲ要求セ
時々施行中ナリ

電気工事ハ右同様ノ状況ニシテ自下施行中ナリ

建築工事ハ一部宿舎ノ修理アルモ自下ノ處火工ヲ供給シ直接聯
合軍ニテ工事スル程度ナリ

0126

五、勞務供給概況

(一) 米軍側ノ申入レニ依リ勞務ノコトニ関シテハ一切クローク
少佐ヲ通シタルモノノ外受諾セザル事

(二) 進駐以來ノ勞務要求數ハ別表ノ通ニシテ之カ供出ハ地元
鹿屋市及近接町村並ニ近接贈答郡内各町村長ニ勞務
供出ヲ要請シ五日乃至二十日ヲ期限トシテ十數名
又ハ數十名ツノ勤員ヲ受ケ米軍ノ要求ニ副ヒツ、
アリ

(三) 大ニハ縣警察部勞政課ヨリ縣下各警察署單位ニ組織
セラレアル勞務報國會支部ニ指令シ勤員ヲ受ケ居リ
四之等ノ宿舍ハ鹿屋市下谷ニ在ル海軍^{海軍省管下}軍使用ノ空家ニ
合宿セシメ炊事ハ勞務係監督ノ下ニ勞務者ヲシテ
之ニ當ラシメ無償給與ヲ續ケテ來レルガ十月一日

ヨリ請員制度ニ改メ食費一日ニ月ヲ徴シツ、在リ

(四) 現狀ヲ以テ勞務供出ヲ今後長期経續スル事ハ相當
困難ノ情況ニ立至ルコト必然ト思料セラル、ヲ以
テ早目ニ常備勞務者ニ轉換セシムルノ要切ナルニ
アリ

(五) 現在鹿屋市ガ掌握セル常備ノ半島人勞務者及別
個ニ飯場ヲ育スル半島人勞務者並ニ宿舍ニ收容
セル邦人勞務者約十八名計三百名位アルニ半島人勞
務ハ稼働率思ク毎日ノ供出數量ニ差異ヲ生スルコ
トアリ尚半島人勞務者ハ中途逃ケ歸ル者尋アリテ
其ノ都度米軍ヨリ逃ケザル様注意方ノ申入アル狀
況ナリ
(六) 其ノ際直ニ邦人勞務ヲ以テ全部ノ要求ヲ充タスコトハ

最モ肝要ノコトニ思料セラル、モ現在ニ於テハ希望者稀
 テ僅少ナル為切換不可能ノ狀況ナリ
 以自動車事故發生
 九月二十五日午前五時五十分頃古江道路高橋ニ於テ勞
 務者迎ヘニ行キタル自動車轉覆シ死者三名重傷
 十八名共、他輕傷四十二名ヲ出セル事故發生、委員
 會トシテハ死者ニ對シ香典料壹百円葬祭料二百円
 家族扶助料(日給四百日分)特別慰籍料扶養家族一名
 ニ對シ參百円ノ割ヲ以テ夫々支出贈呈セラレタリ、
 重傷者ハ保安隊病院ニ入院目下治療中保安隊解隊
 ニ依リ縣ヨリ医師着護婦派遣セラレアリ

勞務者供出狀況調 (十月一日調)

期	間				要					供				
	十月一日	至前廿一日	至前卅一日	至前十四日	人夫	大工	硝子工	水道工	電工	人夫	大工	硝子工	水道工	電工
	七五〇	九〇〇	三〇〇	二〇〇	六〇	六〇	一〇	一〇	一〇	七〇五	六四〇	三〇	一〇	



六 資材供給經過概要

現在マテ當係ニ於テ聯合軍ヘ供給シタル資材ノ大部分ハ建築用資材並電氣設備用資材ニシテ概要次ノ如シ

- (一) 電氣設備用品トシテ聯合軍側ヨリ要求アリタルハ各種電線硝子碍管スルツテ類ソケット類及電球等ニシテ右ハ何レモ當地内販賣業者ノ手持品皆無ナリシニ依リ九州配電會社ト折衝ノ上九月八日ヨリ十九日ニ亘リ要求數量ヲ調達納入シ尚不足セル分ハ串良航空隊ヨリ接受シタルモノヲ以テ補足シ供給一應完了シタリ
- (二) 建築用硝子板及ペンキハ地内建築請負業者ノ手持ノモノヨリ硝子板四一箱ペンキ六缶ヲ納入シタリ
- (三) 屋根葺用波形スレート約三〇〇枚「パテ」五缶ニ関シテハ軍部ヨリ接受ノ上鹿児島市ニ集積中ノモノヨリ供給スル

コトトシニカ輸送ニ付テハ鹿児島市ヨリ古江港迄機帆船古江港ヨリ納入先迄ハトラックニ依ルコト、シ第一便トシテセロ。故ハ十月一日古江港着荷十月二日之ガ陸場納入ヲ完了シタリ

(四) 聯合軍所要ノ木材ニ付テハ豫メL.R.マツゴワント賀嶋連絡委員ト入手方法製材工場能力等ニ付打合せヲナシ木材ノ入手ニ関シテハ連絡委員會ヲ經テ木材會社ヨリ入手スルコトト定メタルモ其ノ後聯合軍ノ拙速主義ニ依リ製材工場ニ於ケル在荷ノ出来合品ニシテ適確品ハ直接軍ノトラックニ依リ運搬納入ノ方法ヲ取リタル為取引上支障ヲ来セルコトヲ以テ聯合軍マツクリン火射ト連絡原則トシテ連絡委員會ヲ經テ木材會社ニ發駐スルコトトシ現在製材工場並工場ニ在荷ノ出来合ノ製品及素材ニテ軍ノ要求スルモノニ付テハ軍ニ於テ直接會社ト折衝ノ上現品ノ受

授了シ會社ニ於テ正副ニ通シ出荷書ヲ作製正ラ單ニ
副ヲ委員會ニ提出單ハ右ニ依リ領收證ヲ委員會ニ送付
スルゴト、セリ現在聯合車ノ入手セル木材ニシテ直
接製材工場ヨリ納入ノ分次、如シ

板類 三四四、五石
角物類 九三、四石

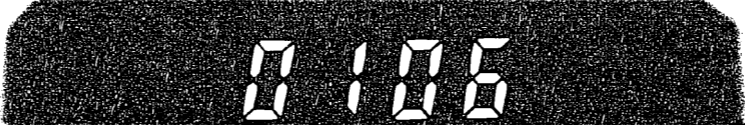
計 四三七、九石

委員會ヲ經テ木材會社ニ發注セル分ハ板(五分)ニ〇、〇〇〇
平方尺、敷居(二吋×四吋×十四吋)五〇、〇〇〇本ニシテ製材工場ノ
厩害ニ依ル能力低下資材關係ヲ考慮、上一應三日迄板
八〇、〇〇平方尺敷居ニ〇、〇〇本ヲ納入スルコトヲ約束
シ現在次ノ通り納入セリ板八四四、〇平方尺敷居七一三
本他ニ直接施設部及個人ヨリ入手セルモノ相當量下

ル見込ナルモ現在正確ナル數量判明ニズ

尚當地方ニ於ケル現在ノ木材ハ戰前ニ於ケル空襲關係
ニ依リ業務輸送ノ不如意ニ依リ各製材工場ハ素材及製
品殆んどナク今後ノ軍ノ要求ニ應ジ製材シ製品ヲ納
入スル見込ニシテ原木ノ入荷ニ付テハ當委員會トシテ
及米軍ノ好意ニ依ルトシテ數量應援ニ依リ急場ヲ凌ギ
ソ、アル状態ナリ

先般當地区ヲ襲ヘル暴風ニ依リ大部分ノ製材工場ハ
破壊シ破損セザルモノハ送電不可能ノ為操業出来ズ
僅カテ屋簷等ニ製材工場ノ操業ニ依リ幸シテ軍ノ要求
ヲ充テシツ、アリ送電復旧ノ場合ト雖モ操業可能ノ
工場七ヶ所一五五馬力程度ニ過ギズ原木ノ生産ニ関シ
ニハ今後會社及森林組合ニ極力努力ス可ク地方事務所



ニ連絡セリ
函 聯合軍將兵ニ付スル土産品(紀念品)販賣所ニ関シテハ
合軍ノ要求ニヨリ業者ヲシテ飛行場内ニ箇所ヲ設置ス
ルコト、シ目下縣商工課ニテ販賣品見本蒐集中ニシテ
近ク具體的ニ進捗セシムル手筈ナリ
尚市内市街地区ニ販賣店開業希望者ニ、ミアルモノ、如ク之等
ハ彼我摩擦防止ヨリ見ルモ適當ナルモノト認メラル、ヲ以テ
特別ノ支障ナキ限、之ヲ承認スレ方針ニシテ博多ノ一業者
ハ既ニ店輔ノ選定ヲ完了シ近日開店ノ見込ナリ

0131

RA'-0108

0107

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

七 通譯事務概況 (十月一日現在)
通譯員名数 一三四

内 譯	
中等學校教員	一八
專門學校教員	一
外國在留者	六〇
學生	七
其他	四八

備考
1 學歷 内地地專門學校以上卒業者 四九 外中卒高卒
2 縣内 一〇六 縣外 二八

(二) 動態
實動 八五 (最近二週間 七〇名乃至八三四名)

賜暇歸省 四二 火急ニ出動セルニ為家事上歸省スルモノ
九月中旬、風害、為賜暇歸省

復歸者 七
但シ漸次歸任シツルアリ
九州總監府ヨリ北九州進駐ノ聯合軍、為他縣人
ハ復歸セルモノト、電報ニヨリ縣外者ニ八名中七名
復歸確定、去就不明十五名(内歸省中者十三名)
發留希望六名

(三) 需給狀況

一、出動要員ハ現在凡十名程度ニシテ要請ニ対スル員数ハ充
分充足サレツルアリ

(四) 通譯員、身分
九月二十日迄ハ鹿屋連絡委員會囑託
九月二十日以後臨時外務省事務囑託



七月一日以降正式ニ恒久的常任性ノ嘱託トシテ養任待遇 判任待遇 雇員、臨時嘱託等、身分確定ノ見込

(五) 報酬

九月二十日以前日給拾五円均一 食費官給
九月二十日以後十月三十一日給五円乃至拾円 諸手当等合算シテ月百五拾円乃至四百五拾円位トナル見込
十一月以後、百円乃至貳百五拾円、月俸トシテ諸手当合算百五拾円乃至四百五拾円トナル見込
但十一月以降食費月七拾五円ノ自給(合宿舎提供)

(六) 所見

入選ニ就キテハ火急ノ場合故不通確者モ相當見受ケラレタレド
今後ハ次ノ諸点ヲ特ニ考慮致シ度
1. ショットモ中等學校以上ノ學歷教養アル人物

2. 英米等英語ヲ國語ト為ス外國ニ在留シ常務アル人物
3. 英二項ニ準シ貿易商其他海員等外國人ニ接セル經驗多キ

4. ショットモ三月以上滞在シ得ルモノ
5. 身元調査ヲ充分ニ行正シキ人物ノ選定
6. 簡易ナルテスト及人物健康等ニテキ診斷スルコト
第一項ヨリ第五項マデハ警務部ニ於テ特ニ留意シテ之ヲ推薦シ更ニ適格者名簿ヲ別ニ作製シテ甲乙丙トシ將來ノ急ニ備ヘ置テ事

備考
1. 上記員數中永續通譯官希望者、凡參檢者故當分相當人物ノ推薦派遣方、必要ヲ認ム 人員凡四拾名位
只合宿通勤ハ任意ナリ

ハ輸送事務概況
ハ進駐當時状況

九月三日鹿屋進駐軍到着ヨリ九月十日ニ至ル十日間ノ輸送事務ハ委員
會管理ノ下ニ陸軍並海軍ニ於テ之ヲ担当シマリ此ノ間ニ於ケル進駐
軍ノ要求ハ毎日概不四十車輛内外ニシテ車輛ノ差出ハ陸軍側ニ於テ
其ノ半数海軍側ニ於テ残り半数ヲ担任シマリタル模様ナリ
海軍側差出車輛ハ殆ド總監府召集ノ民間車輛(熊本宮崎
鹿児島)ニシテ其ノ管理監督ハ海軍ニ於テ之ヲ行ハシマリ
事務引継時状況

九月十日海軍並陸軍側ヨリ車輛其他事務引継了了シ翌
十三日ヨリ現在ノ輸送部ニ於テ總テノ事務運営ヲ開始セリ
此同時進駐軍ノ要求ニ車輛數ハ毎日概不二十九輛(別ニ十輛
ハ陸軍ヨリ直接進駐軍ニ引渡シタルモノ)以内ナリガ實質動車激減ノ

為之ガ差出配車ハ極大ニ困難ナリ状況ニ陥リ

此同時、車輛状況(貸物自動車)

陸軍	海軍	陸軍	海軍	陸軍	海軍	陸軍	海軍	陸軍	海軍
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
10	10	10	10	10	10	10	10	10	10
11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
17	17	17	17	17	17	17	17	17	17
18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
22	22	22	22	22	22	22	22	22	22
23	23	23	23	23	23	23	23	23	23
24	24	24	24	24	24	24	24	24	24
25	25	25	25	25	25	25	25	25	25
26	26	26	26	26	26	26	26	26	26
27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
28	28	28	28	28	28	28	28	28	28
29	29	29	29	29	29	29	29	29	29
30	30	30	30	30	30	30	30	30	30
31	31	31	31	31	31	31	31	31	31
32	32	32	32	32	32	32	32	32	32
33	33	33	33	33	33	33	33	33	33
34	34	34	34	34	34	34	34	34	34
35	35	35	35	35	35	35	35	35	35
36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
37	37	37	37	37	37	37	37	37	37
38	38	38	38	38	38	38	38	38	38
39	39	39	39	39	39	39	39	39	39
40	40	40	40	40	40	40	40	40	40
41	41	41	41	41	41	41	41	41	41
42	42	42	42	42	42	42	42	42	42
43	43	43	43	43	43	43	43	43	43
44	44	44	44	44	44	44	44	44	44
45	45	45	45	45	45	45	45	45	45
46	46	46	46	46	46	46	46	46	46
47	47	47	47	47	47	47	47	47	47
48	48	48	48	48	48	48	48	48	48
49	49	49	49	49	49	49	49	49	49
50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
51	51	51	51	51	51	51	51	51	51
52	52	52	52	52	52	52	52	52	52
53	53	53	53	53	53	53	53	53	53
54	54	54	54	54	54	54	54	54	54
55	55	55	55	55	55	55	55	55	55
56	56	56	56	56	56	56	56	56	56
57	57	57	57	57	57	57	57	57	57
58	58	58	58	58	58	58	58	58	58
59	59	59	59	59	59	59	59	59	59
60	60	60	60	60	60	60	60	60	60
61	61	61	61	61	61	61	61	61	61
62	62	62	62	62	62	62	62	62	62
63	63	63	63	63	63	63	63	63	63
64	64	64	64	64	64	64	64	64	64
65	65	65	65	65	65	65	65	65	65
66	66	66	66	66	66	66	66	66	66
67	67	67	67	67	67	67	67	67	67
68	68	68	68	68	68	68	68	68	68
69	69	69	69	69	69	69	69	69	69
70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
71	71	71	71	71	71	71	71	71	71
72	72	72	72	72	72	72	72	72	72
73	73	73	73	73	73	73	73	73	73
74	74	74	74	74	74	74	74	74	74
75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
76	76	76	76	76	76	76	76	76	76
77	77	77	77	77	77	77	77	77	77
78	78	78	78	78	78	78	78	78	78
79	79	79	79	79	79	79	79	79	79
80	80	80	80	80	80	80	80	80	80
81	81	81	81	81	81	81	81	81	81
82	82	82	82	82	82	82	82	82	82
83	83	83	83	83	83	83	83	83	83
84	84	84	84	84	84	84	84	84	84
85	85	85	85	85	85	85	85	85	85
86	86	86	86	86	86	86	86	86	86
87	87	87	87	87	87	87	87	87	87
88	88	88	88	88	88	88	88	88	88
89	89	89	89	89	89	89	89	89	89
90	90	90	90	90	90	90	90	90	90
91	91	91	91	91	91	91	91	91	91
92	92	92	92	92	92	92	92	92	92
93	93	93	93	93	93	93	93	93	93
94	94	94	94	94	94	94	94	94	94
95	95	95	95	95	95	95	95	95	95
96	96	96	96	96	96	96	96	96	96
97	97	97	97	97	97	97	97	97	97
98	98	98	98	98	98	98	98	98	98
99	99	99	99	99	99	99	99	99	99
100	100	100	100	100	100	100	100	100	100

實質動車激減ノ理由
一、車輛使用状況が限度ヲ超ニテ激シク手入並小修理ヲ施ス餘裕
ナク為ニ故障車續出セリト
即チ毎朝五時ヨリ勞務者輸送ニ當リ引續キ進駐軍飛行場ニ



於テ終日各般ノ作業ヲ繼續午後七時引揚ゲセモ更ニ夜間作業ニ從事スル車輛モアリテ其ノ使用暇ニ失レテ手入小修理ノ余裕サヘナキ状況ナリ

(二) 修理工場ノ設備ニ至ルニ備へ要スル自動車部品等ノ施設ナシ車輛ノ使用暇ニ失レ故障車積出セモ急速ニ之ヲ整備スルキ工場工具・部品・要員等ノ施設ナシ運轉員ニ於テ漸ク小修理ヲ施ス程度ナリ

(三) 陸軍並海軍ヨリ車輛數ハ三十八受領セモ老朽車多ク直チニ使用シ得ル實自動車ハ僅カ敷台ニ過キサリコト殊ニ陸軍部隊ノ引揚較進ニ優秀車ヲ使用シ委員會引渡ノ車輛ハ老朽車多ク而モ半數以上六軍専用ノデイズル車ニテ修理不可能ナリ

(四) 總監督召集 民間車輛ハ一般的ニ老朽車多シ

鉄上ノ事由ニ依リ實自動車ハ逐日遞減ノ状況ニアリ而モ進駐軍ノ要求ハ冷厳ニシテ其ノ要數ハ絕對確保ノ要アリ然レニ實自動車ハ進駐軍ノ要求スラ充レ能ハズ更ニ委員會直接ノ作業ニ未作業糧倉運搬・彈藥輸送ニ最少限七台ヲ必要トシ之等ノ配車ニ苦心慘澹ノ状況ヲ極メタリ斯ノ如ク配車部面ニ於テモ將來ノ憂慮サレ進駐軍トノ間ニ大問題ヲ惹起スルノ慮ナリ又運轉員ニ於テモ毎朝未明ヨリ終日作業ヲ續ク更ニ夜間作業ヲ繼續スル等其ノ勤勞過激ナルト一面言滯不通進駐軍ニ對シ不慣レノ恐怖感ヨリ無斷逃走スル者等アリテ一般的ニ從業ヲ嫌ヒシノ動趨ノ徵候ヲ示シ輸送事務ノ運營ハ物人共ニ多シ難ヲ極メ之ガ緊急対策ヲ講スルニ非ザレバ旬日ヲ出ズルニ重大事ヲ惹起スルノ慮ナリタルヲ以テ差出當リ當面ノ對策トシテ次ノ諸点ヲ計畫シ之ヲ急速ニ實現ニ努メタリ

第一 自動車修理工場ノ設置

- 第一 整備要員、確保
- 第二 自動車部、確保
- 第三 自動車、増加(新規)
- 第四 近駐軍要車、飛行場、常置
- 第五 近駐軍要車、飛行場、常置
- 第六 近駐軍要車、飛行場、常置
- 第七 運輸員、対心精神教育

三 對策、實施

(一) 近駐軍要車、飛行場、常置並自動車修理工場、設置
 從來近駐軍、要車、毎朝當日、所要台数を取揃へ飛行場
 指定、位置之差出に於て、途中に於て事故、發生(作業員に甚
 運輸員、一時的逃避)又ハ勞務者輸送、為指定時刻に遲延スル
 等所要台数を確保スルに困難極メ為之に近駐軍、誤解ヲ招キ
 不信、原因ヲ作り感情變化、傾向アリ

近駐軍、要求スル所要車輛ヲ完全掌握スルハ當方ニ於テ
 毛態勢悪更、必要ヲ認め所要車輛、飛行場、常置方、申出
 名ニ近駐軍ニ於テも當方、誠意ヲ了、案七、如ク本問題ニ付
 却テ先方ヨリ一步ヲ進メ正式ノ申出ヲ受ケタリ
 即チ其、内容ハ

- (一) 飛行場内、適當、位置ヲ選定シ車輛置場並修理工場ヲ設
置ス(キ建物ヲ提供ス)
 - (二) 所要車輛(車輛)ハ右指定、位置ニ常置シ運輸者ハ通勤ス
ル
 - (三) 自動車修理工場並車輛、整備配車連並ハ責任ヲ以テ
委員會ニ付ス
- 致上、要車ハ當方ニ於テモ希望スルニ付テ双方合議上直々之
 カ實行ニ着手ス

7. 3. 3
5. 5

修理工場に充つべき建物ハ十七日、暴風ニヨリ倒壊セラレテ更ニ別
ニ建物ヲ選ビ諸施設ヲ進メルガ建物補修ニ要スル資材勞務一
切ハ進駐軍ヨリ差出ラ受ケ當方監督下ニ速ニ完成シ更ニ水道
電燈施設等總テ進駐軍側ニ差出ニ依リ完備ヲ見タリ

而シテ本工場ニ三州自動車工場ノ一部ヲ移転セシメ技術員職
工長以下十名ヲ以テ作業ヲ開始シ同時ニ所要車輛二十五台
ヲ飛行場ニ移シ之ヲ常置セシメ更ニ連絡係員トシテ警備官
ニ名通譯ニ名ヲ常時着直監視ニ當ラシメ円滑ナル運送ヲ
見セシメ至レリ

(二)進駐軍要亦車輛ノ問題
實自動車運送之ニ對シテ整備施設ノ伴ハサル狀況下ニアリテ
進駐軍要亦ノ車輛數増加スルニ於テハ到底円滑ナル運送ヲ望
メザルハ勿論誤解不信ヲ招来スル原因トナラシテ當方ノ實情

苦心ノ狀況ヲ其儘ヲ進駐軍ニ示シテ解ヲ得ルルニ必要アリ而シテ
要亦車輛ノ減トシテ因ハ當面ノ緊急問題ナリシヲ以テ進駐
軍輸送責任者アヤスホシ大尉並ニイルン中尉ト再三接洽
シ當方ノ實情ヲ有様ニ述ベ車輛ノ現状ヲ視察セシメル等認
識ヲ深メタル結果相當ヲ解ヲ得ルル処アリテ當初ニ見タル冷
嚴ナル要求ヲ漸次緩和セシメ感情的ニ好感ヲ抱クニ至レリ
飛行場常置ノ要亦車輛ハ最初優秀車三十輛ナリシガ之ヲ
二十五輛ニ減ト更ニ二十五輛中ニ故障車三輛ヲ加ヘ差支ヘナキ
承認ヲ得結局實自動車ニ十二輛ヲ以テ解決セリ
而シテ飛行場修理工場ノ完成ト同時ニ前記車輛二十五ト運
転員三十名(予備員五)ヲ取揃ヘ差出ラシメガ本事業ノ速カラ
ル定メニ依リ一層好感ヲ深メ右車輛ノ消費スル燃料油脂等
自給的ニ進駐軍保有ノヲ提供サレリ高現在ノ差出車輛二十五

7. 3. 3
5. 5

0137

RA'-0108

0113

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

以六今後要ホセサル約束ナリ
三整備要員ノ確保

飛行場常置車輛ニ対シ修理整備ハ三州工場ノ一部移転ニ依リ
一應解決ヲ見タルガ發存車輛整備亦急務ナルヲ以テ鹿児島ヨリ
整備技術員十三名ヲ招致シ修理工場ヲ設ケ着々車輛整備ニ
當ラシメマシマリコノ結果好成績ヲ舉ゲ發存車輛モ最近十五輛
以上ノ實動車ヲ得委員會直接ノ作業ニ當ラシメマシマリ
四自動車部品ノ確保

故障車ノ増加ニ伴ヒ之ガ修理整備ニ絶対必要ナル部品ノ確保ニ
付イテ六莫ニ十二空廠補給科ニ接洽シ相當量ヲ確保シ得
ルガ更ラニ不足ノ分ハ三州工場具他ヨリ斡旋獲得ノ見込ナリ
五實動車ノ新規増加
事務引継當時ハ實動車不足ノ運送困難ニ陥ル虞レマリ

クルヲ以テ更ニ鹿児島縣ヨリ十輛追加差出方ヲ手配ナシタルガ修
理工場ノ設置ニ伴ヒ車輛整備順調ニ進行シ又進駐軍要
求車輛モ減下シテ關係上現在ノ保有車輛ニテ充足シ得ル
状態ニ至リタルヲ以テ新規増加ハ一應中止シ特ニ必要ナル場合
ハ鹿屋合同トラックヨリ應援ヲ求ムコトナセリ

六運輸員ニ對シ精神教養
運輸員ハ鹿児島熊本宮崎ノ三縣下ヨリ集リ各々所屬
會社モ異ル關係上統一ヲ欠キ而モ毎日ノ作業ハ激務ニシテ
進駐軍關係ノ作業ヲ嫌忌シ無断逃走者ヲ出ス等相當
動盪ノ氣配アリタルガ運輸員ノ精神教養ハ輸送事務運
營ノ根本問題ナルヲ以テ凡ラモ機械會ヲ利用シテ之ガ教養
ニ努メタリ 即チ各縣ニテ地編成ヲ以テ三縣ニテ班

ヲ編成し毎夜班長會議ヲ開催シテ注意指示ヲ與ヘ更ニ適當ナル
機會ヲホシテ運輸員ニ精神教養ヲ施ス等一段ノ努力ヲ注キ
タル結果相當ノ效果ヲ收メタリ

(四)

結語

對進駐軍輸送事務ハ前述ノ通り飛行場指定ノ位置ニ要
求車輛ニ五ラテ出シテ常置ニテ使用セラルアリ
此ノ内故障數台以上ニ及ブトアルモ別ニ車輛増加ノ要求ヲ受ケ
タルコトナラ故障車ハ速カニ修理工場ニ於テ整備セシメツアリ
テ現任ノ狀況ハ極メテ円滑ナル運送ヲ見ソフアリ輸送隊ノ編成
ハ別表ニ示ス如ク飛行場流トテ部隊ニ分ケ各分組ヲ定メテ作
業ノ進捗ヲ因リツマシガ大体軌道ニ乘リソフマルト認メラル
更ニ内部的問題トシテ民間差出車輛ニ對シテ補償費及運輸者
手當ノ決定今後ノ冬等々如何スルヤノ問題アルガ是等ノ一切

ハ鹿児島縣直物自動車運送事業組合ヲシテ一振運送ニ當
テシテハ針ノ機ニ目トシテ準備ヲ進メタリ

0139

RA'-0108

0115

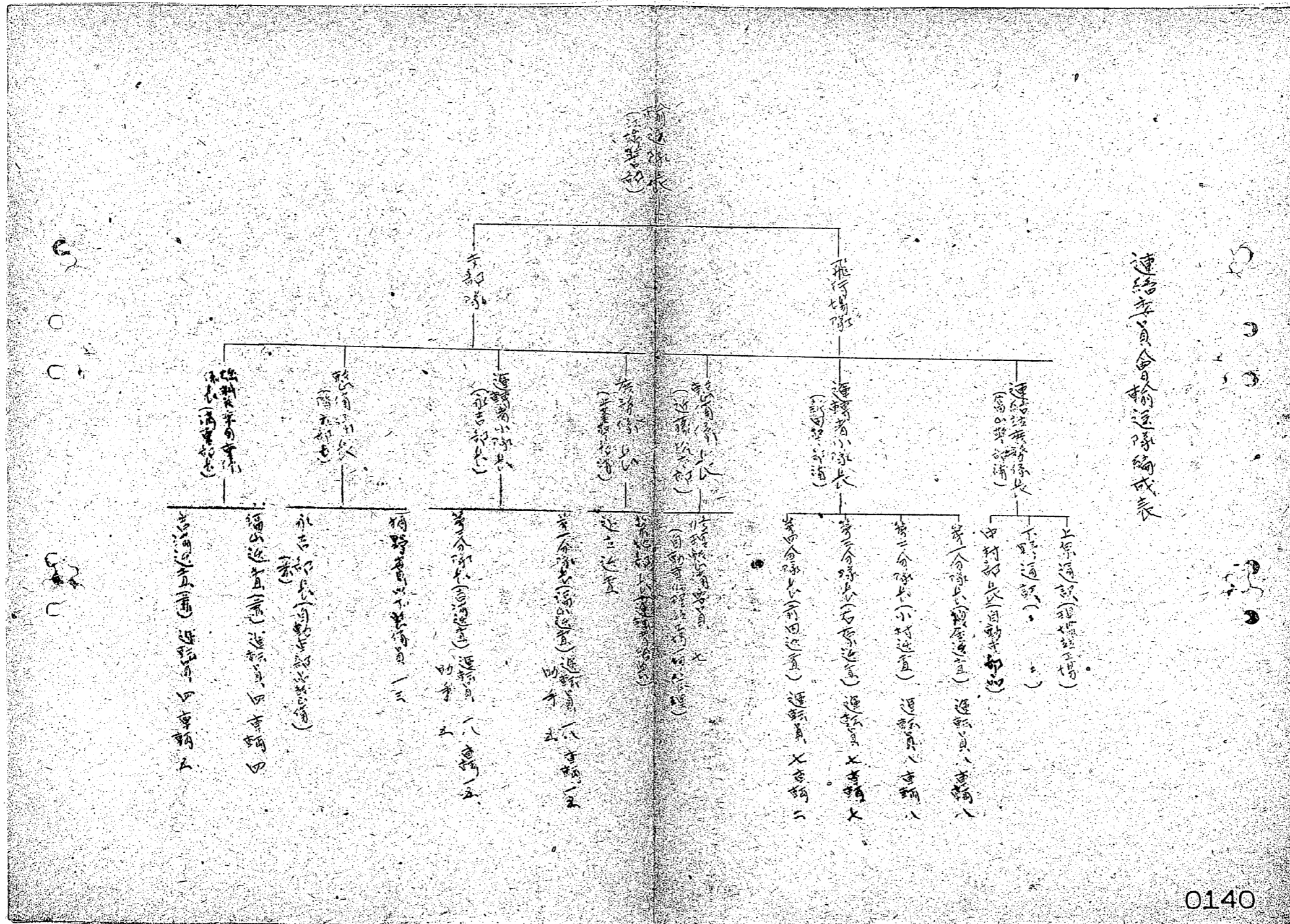
外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan



RA'-0108

0115

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

九 衛生ニ関スル連絡經過概要

(一) 聯合軍鹿屋進駐直後アトム中佐、訪問ヲ受ケ左記事項、質問アリタリ

イ 傳染病、流行狀況及其菌型

ロ 當地方ノ風土病、概要

ハ 疾病ヲ媒介スル昆虫、發生並ニ分布狀況

ニ 花柳病、漫延狀況及慰安婦、實況

ホ 上水道、設備水質等

ヘ 下水道、設備、有無及良否

ト 供給シ得ヘキ水、數量

チ 屎尿、処理方法及腸内寄生虫、罹患率、

リ 當地方ニ於ケル一般環境衛生(衣食住)

又日本ニ於ケル恙虫病、著明ナル研究者及其勤務所

以上ニ對シテハ右々詳細ナル回答ヲナセリ

(二) 聯合軍アトム中佐ヨリ、要求ニ依リ左記物品ヲ提供セリ

イ 顯微鏡 一台

ロ 暗視野装置 一台

ハ ギムサー氏液 一

ニ 硫酸マグネシア 約七五。丸

尚又線装置提供、申入アリタルモ當地ニ現品無キ由ヲ通シタル處

了承セリ外ニ顯微鏡ニ台移動器械台一個、光方ニ於テ

準備整ヒタルヲ以テ申入レヲ取消シ来レリ

(三) 慰安婦、檢診問題

イ 鹿屋市青木所ノ遊廓ヲ聯合軍専用、慰安所トシ慰安婦

二十數名ニ就イテハ囑託匠種子田医師ヲシテ五日毎ニ檢診ヲ

實施セシメ一方聯合軍ニ於テハ兵員ニ對シ洗滌處置ヲナシ

ツ、アリ今後尚一層嚴重ニ檢診ヲ勵行スルヤウ申入レアリ
 口慰安所移転ニ就イテ内意アリ研究中ナリ
 ハ密娼ノ檢懲ニ就イテハ考慮中ナリ
 (四) 傳染病發生ノ報告
 進駐地域ニ於テハ傳染病發生狀況ニ就イテハ隨時聯合軍側ニ
 報告ヲスルト共ニ医師團及所村警署當局ヲ督勵シ傳染病
 ノ防圧届出ノ勵行ニ努ムンアリ
 (五) 聯合軍ハ一般ニ當方ノ處置ニ信頼シアリ
 連絡員ハ松尾海軍少佐大佐 永井少佐担当セルニ九月二十九日未
 交代ス

0142

RA'-0108

0118

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

十、米軍の要求事項(食糧関連)

一、水 道駐當時水供給可能量ヲ照會アリタルニ依
リ、其量所在ニ和澱粉會社ノ製氷能力一日六吨ニシ
テ、高約四吨ヲ差引キ毎日約二吨程度ノ供給ヲ十
シ得ルコトヲ委員會ヨリ回答セリ
オ、ホシ大尉ハ前記製氷所ニ委員ト共ニ實地檢分
ニ赴キ水カクトヒシ(現在四十五馬力一基)及淨水設備ヲ
視テ一日ノ製氷能力十吨以上トシ米軍ニ於テ其ノ
製氷ヲ使用スルコトヲ同會社ト假契約ヲナシテ
租シ一般民衆トシテ一日四吨程度ハ供給スルニ十
トス當時ニ共ニ以上ノ必要トスル場合モ可成供給ス
ルコト下セリ
二、蔬菜供給量如何ノ照會アリタルニ依リ委員會ハ茄子

四、製粉鶏卵等ニ関シテハ前分不能ナルト申入シテ

三、牛肉供給量如何ノ照會ニ對シ毎日三百斤ノ供給ス
ル旨回答セリ

一、シニ其ノ後、滿鐵中長ニ於テ個人的ニ米軍將校ノ一
部ノ者ニ贈物トシテ鶏卵百個及好鶏五羽ヲ與ヘ
タル為前記委員會ノ由入ガ虚構ナル申入ノ如ク察
ラルコト、成ルヲ以テ委員會ハ更ニ市役所ト打
合セ、上一週間ニ仰百個(但十一月以降ニ百個)鶏三十羽
ヲ供給シ得ル事ヲ申入レタリ

五、ビートル 農林省土屋事務官ヲ通シ九月十三日米國
軍政部キヤップテネン(五打)ヨリニ三五函(五打)ノ要求
アリタルニ依リ供給方應諾シ九州總監村加藤

0143

旅亭宣ノ韓旋ニテ當連絡亦負會宛ニ車ト一六五函ノ送
 付ヲ受ケテリ然レニ九月二十三日八斗水ヲ供給スル様米
 軍ヨリ変更要求アリタルニ依リ九月二十五日八斗水不足
 ヲ供給セリ上月四斗水軍ヨリ毎週一斗五斗水ヲ供給可
 能ナリヤト照會アリタルニ對シ豫テヨリ九州總監府
 ノ調査ニ依リ毎週五斗水(米軍人負三五〇〇名一日一人當
 ニ水)ヲ福岡ノ竹下及門司ノ工場ニテ供給能力アルコト
 ノ通報ニ按テ居リ其輸送力ニ付目下宮崎管理部ニ照
 會中ナリ依ソテ未ダ前記照會ニ對シテハ未面答ナリ
 (六)食糧價格ニ関スル米軍ヨリノ照會
 十月二十日ハンセンソト大尉ヨリ食糧ノ價格ニ付八月十五日
 現在ハ照會セラレタルヲ以テ肝高地方事務所經濟係
 ニ調査方ヲ依頼セリ公定物是價格及現下ノ通リ相

場ヲ調査シ十月九日関係係員ノ協議ヲ經テ十月十
 日米置ニ回答スル見込ナリ
 (七)十月三日ノ注問
 牛肉三〇〇封(三六貫三百々)十月六日屠殺日
 甘藷二〇〇封(二四貫二百々)市農業者共荷済
 鶏卵七〇〇個
 一果荷困難ナルニ依リ出来得
 限リノ努力ヲ拂フ事

右三品種ヲ十月七日夕刻ノ四時見込ニ供給スル事ヲ
 申入レタリ
 八月六日ノ要求
 照落花生桶ノ供給量如何ノ照會アリタルニ依リ前項
 木ト同様ノ取計ヲナスコトヲ回答セリ
 (九)ビール空瓶

右三品種ヲ十月七日夕刻ノ四時見込ニ供給スル事ヲ
 申入レタリ
 八月六日ノ要求
 照落花生桶ノ供給量如何ノ照會アリタルニ依リ前項
 木ト同様ノ取計ヲナスコトヲ回答セリ
 (九)ビール空瓶



十日ヨリ米軍ニ於テ空瓶二千本ヲ保有スルヲ以テ其ノ引取
 方ヲ要求セラルタルニ依リ十月六日ヨリ販賣會社荷扱
 人宮崎商店ヨリ引取ラシムル豫手配セリ
 中連絡委員會關係食糧事情

九月三日及四日、米軍進駐ニ依リ關係各省九州總監府
 軍部係員及縣廳係員ヲ以テ連絡委員會ヲ組織サレ
 タルモ其人負ハ次如キ數ニ達シタリ

- 委員 委員附其由附屬人員 一五〇名
- 通訊 海軍 一三名
- 總監府幹吏 八〇名
- 通信員 海軍 四〇名
- 通信院 二三名
- 保安隊 一六五名

- 警備隊 三五〇名
- 運轉員 宮崎 三八名
- 熊本 三二名
- 鹿兒島 三五名
- 合計 一〇五名

- 勞務者 合計者 四六〇名
- 半島勞務者 二二名
- 合計 六七二名

右人員、轉出證明ヲ持テスルコト困難ナル實情ニ在
 リシ爲一般配給ヲ受ケル事能ハズ保安隊ノ食糧(十月
 迄)食糧ヲ確保シアリタリニ依存スルノ止ムナキ情
 態ナリナリ然ルニ保安隊ハ九月末ニ解除サレ十月一日ヨ
 リ連絡委員會ニ於テ元水交社事務長河合氏ノ請
 員ニテ烹炊ヲ開始セリ、勞務者ハ九月十一日ヨリ下谷



指泊所(四六〇名)ノ烹炊ヲ開始シタリ
十月現在給食人員

委員會事務所 譯 七五名 米三合 甘藷七〇升
警備隊 負 一〇九名 米三合 〃 七〇升
運轉員 運轉員九八 三〇〇名 警察署ニ於テ給食ス

勞務者 計 四七六名 米四合 一四〇升
市内供出勞務者 一〇九名(三食給與)
一日ノ所要量 米 三〇八斗二升(九俵半)
甘藷 九六貫四六〇升
十一月所要量 米 一四七斗(二八俵)
甘藷 二九三貫

十月三十一日食糧

支入總數 米 二一五〇俵
内訳 佐世保海軍施設部 六五〇俵
九州海軍航空隊(玉水) 一五〇俵

拂出總數 米 三〇〇八俵
差引残高 一八四二俵

但シ出欠一五〇俵ハ入手迄相當ノ期門ヲ要ス
現在手持米ヨリ軍部ニ供給スル是約三〇俵アル
見込ナルヲ以テ向フ三〇日間ヲ看ヒ得ル見込ナリ



四、重要電報寫

東通三二四三八番電

發所參謀長宛九州空司令官

九州空司令官三華條ハ特令ニ特機送鹿屋ニアリテ進駐部隊ト接衝ニ任セシメラル
右命ニ依リ

機密三二七一九番電

GB電令第一四三號聯合國軍進駐條件文ニ依ル鹿屋飛行場使用ニ関スル
飛行場勤務其他諸措置ハ所長官所定ニ依リ之ヲ準備スベシ

大海機密第三二一〇五番電

大海指第五三六號 昭和二十年八月二十三日 指示先省略

一、所長官ハ佐鎮長官ハ協力ヲ得テ別ニ定ムルニ依リ速ニ鹿屋基地ニ連絡
本部會ヲ設置シ進駐部隊指揮官ト折衝シ鹿屋基地ノ治安維持ニ

任セラル

二、佐鎮長官ハ所屬海軍保安隊ヲ編成鹿屋基地ニ派遣連絡委員會ヲ

軍、委員長、指揮官ニ任セラル

三、所長官ハ速ニ鹿屋基地ニ於ケル通信氣象關係ノ新設施設及委員ヲ整備ス

機密三三三二番電

四、鹿屋ニ於ケル治安維持ニ関シ所長官ハ陸軍ト協議シ之ヲ協力スベシ

發所長官宛GB長官通報決意次官 一、佐西部軍

二十日〇〇。〇。〇。以後一切戰闘行為停止ノ命ニ依リ之ヲ實行ノ徹底ヲ期

スル為當艦隊ハ當面措置トシテ一部保管員ヲ殘置シ爾余ノ全員ニ對シテ休

取ヲ許可シタルヲ以テ自下當艦隊各基地ハ機能ヲ有シテラス鹿屋基地ハ

通信ニ不如意ニシテ善処ス尚佐鎮駐陸軍ハ協力ヲ得度

機密三三二番電

發所參謀長宛軍務向長

鹿屋進駐ニ對シ中央派遣委員ハ可成速ニ鹿屋ニ派遣セラル度

0147
20.10.14

機密ニ三三〇八番電 發 坂參謀長宛軍令部一部長

九州方面人心動搖甚シ進駐地域甚地等公卷方取計シ度

機密ニ三三〇九番電 發 坂參謀長 宛佐鎮參謀長

麻屋基地急遽整備ノ為ニ四日付解隊予定ノ在麻屋設營隊ハ當分其儘トセラレ度

機密ニ三三〇四番電 發 軍務局長 宛省廳

内閣ニ於テ麻屋連絡委員會(大海指第五三六号ニ依ルモノト別個)ヲ依リ編制ノ事ニ平配中

一目的主トシテ麻屋撤退地区ニ於ケル諸設備ニ関スル情報ヲ提供シテ進駐準備ヲ容易ナラセラルト共ニ要求スルコトアルヘキ進駐ニ應ズル基

地整備宿營沐浴養等ノ交渉斡旋ヲ行ノル目的トシテ豫テ之附隨スル案内及接待ノ事項ニ任ス

二編成 委員長 草野中將 委員 陸軍三名 海軍六名(三代大佐井長)

中佐及主航艦佐鎮五特攻隊ヨリ計四名(外務二名内務二名)軍需運輸農高遞信各一名尚委員ハ狀態ニ依リ増減スルコトアルヘキ要領

の理地ニ於テ委員長ヲ指揮シ第一項ノ處理ニ任ス但シ事務的處理ハ夫ノ主務者ニ於テ實施ス警備治安維持ニ關係スル事項ニ關シテハ理地警備担当者指揮官ヲ指揮シ受クルモノトス

四委員新要ノ自動車通訳配置所属ノ掌部ヲ準備スルヲ原則トス

四業務 八月二十七日開始追テ中央ヨリ委員ハ二十七日空路進出予定

五大海指五三六号ニ依リ海軍委員會ハ本委員會ト一體トナリテ事務處理ニ任スル如ク取計シ度

麻屋ニ三三〇四番電 發 麻屋海軍連絡委員會委員長宛佐鎮 通報軍務局長 大海指一第 坂

當方面ノ現状ニ鑑ミ左記急遽實施方取計レ度

一 五航艦ヨリ協議ノ通信關係員ノ急派

二 保安隊ノ急派(可成多數トモク使用)

三 自動車(乗用車トトラック)運轉員共軍官民ヲ通シ可成多數急派

四 設營隊特ニ木工ノ急派

五 進駐兵力ニ對スル毛布食料所專員要スルハ船便ニテ急派

六 自動車用アルミール可成多數

東連ニテ。番電。發大匠宛佐鎮長官通報草席中將(麻屋基地)

佐鎮長官ハ保安隊一五〇名。小銃。拳銃。輕機(武裝)設營隊。

名陸上輸送隊一隊。整備員二〇名。及基地運營ニ必要ナル工作兵。衛生

兵。主計兵。速ニ麻屋地ニ取出。麻屋連絡委員會長。指揮ヲ受ケル。

麻屋ニテ。番電。發麻屋海軍連絡委員會長宛佐鎮通報(軍務部)

麻屋基地燃料車。殆ト皆無ニテ。以上急遽方取計度

麻屋ニテ。番電。發大匠總長。G8長官

草席中將本日麻屋着。麻屋連絡委員會事務ヲトル

佐通機密三六二五番電。發佐施設麻屋支部長宛麻屋支部長事務部長

米海軍進駐ニ伴フ施設ハ極力促進ノ要アリ。各地方事務所設營隊

兵力資材貨物自動車集結左ニ依リ之ヲ實施スル(佐施設ヨリ)

應援ハ考慮中

一 米軍進駐軍士官三〇〇名。兵員約三〇〇〇名

二 施設ハ一部トシテ利用スル可

三 便所浴場等ハ可及的洋式トナス

四 飛行場ハ使用容易ナル如ク修復ヲ施ス

東通ニテ。番電

米國軍ノ進駐ニ関スル聯合國最高司令官要事項中八月二十六日以後

ノ期日ハ天候ノ為メテ四十八時間繰リ下ケラレタリ

東通二六〇七番電 發人車務局長

八月二十八日附横井(三八五)三代(一九八)高橋(二五五)福原(三五三)井伏(二七四)西村(二四三)田中(三三三)杉尾(九五〇)山口(一五七)

以上九名麻屋連絡委員會委員ヲ命ゼラル

佐通二八九〇番電 發佐鎮宛麻屋聯絡委員會長軍務局長通報(大海一隊)

一通信關係員二十五日出發派遣濟外ニ電氣補修工員工廠ヨリ派遣濟)

二保安隊一々中隊(先遣隊)二十七日出發外ニ六々中隊ヲ基本トス保安隊

本隊逐次出發ノ予定(糧食一週間分及麻具携帶)

三派遣兵力作業用「トラック」派遣十台近日中派遣ノ予定其「他」トシテ

隊乗用車 二台外ニ突撃隊ヨリ「トラック」約四台派遣濟進駐軍

ニ付「海軍」分担數ニ對シ目下鋭意蒐集中ナラズ途散セル五航

艦附屬車輛ノ集收ニ關シ更ニ努力セラル度尚蒐集車輛ノ部

臣所要概數通知セラル度

四施設關係兵力幹部ニ六月二十七日「トラック」ニテ派遣殘存兵力約

三五〇名ハ三九日列車「便」ヲ出發ノ予定尚一般作業兵カトシテ突撃隊

隊兵力約三〇名ハ三九日派遣中

五進駐軍要求程度不明ニ付目下研究中 但副食ハ主トシテ終盤

ニテ担任ノ下ニ協議中

六自動車燃料ハ在庫少キニ付差支リ在麻屋ノ「一〇」方立テ充

當タルニテ致度

佐三二五番電 發軍務局長宛麻屋連絡委員會長

聯合國進駐ニ日延期ハ確實ナリ

麻屋二八二八番電 發麻屋海軍連絡委員會長 宛軍務局長

通報大海一隊 G3 佐鎮 JAF

二十八日二〇〇ニ於ケル麻屋地区整備狀況

一治安概平靜ナル佐鎮保安隊先發二八〇名本夕到着明朝ヨリ陸軍

0151

又市上警戒交替ノ予定

二飛行場ニテハ八日陸軍兵カセ。又一部海軍力ヲ以テ滑走路誘導路前庭彈痕ノ大部ニ埋修了。陸軍兵カハ明二十九日ノ刻迄協力ノ予定爾後海軍力ニ依リ填壓一部鋪装ヲ三十日中ニ完了

三宿舎設備

空成合議所共濟組合病院士員養成所教室旧航空隊本部ノ廳舎ヲ充當予定ニテ清掃註ニ補修開始三十日概成ノ見込

四通信

無線

東京太分佐世保上連絡可能本日佐鎮ヨリ飛達ノ半兵力着斗進駐軍電波網定済

四有線

隊内使用可能隊外久留木附近故障ノ為昨日ヨリ不能陸軍線

ニヨリ關係陸軍部隊ト連絡可能

五車輛

トヨタクセ台(実動四)今後逐次佐鎮ヨリ到着スルモ以外急遽増加ノ見込ナシ燃料車実動ナシ極力搜索整備中ノ其ノ他使用可能

空成施設部トヨク約一〇台アリ

六燃料概テ既報ノ通自動車燃料ハ自動車増加ト共ニ急減シテアリ航空機燃料由一部轉用ニテ中ノ考慮中

七兵器飛行機類ノ処理三十一日ニ完了ノ見込

八各地附近所左部隊員ノ復原格々レカラス現員準士官以上ヲ除キ約一六〇

九内閣連絡委員會委員佐鎮以外未着ナル各部ト折衝ヲ開始セリ

麻屋ニカ〇七三番電 各麻屋海軍連絡委員會長宛軍務部長

一麻屋先遣隊飛行機連絡用電波四九五(ヨコイ)カ準備定成

0152

二 電話要求ノ場合ヲ考慮シ無線電話ヲ準備シテリ通距離一〇〇浬
附近 当地英語文話員ナシ至急送ラレ度

三 通信省航空向ヨリ無線電信員八名到着

麻屋三九〇八四番電 發五批艦長官人軍向長 通報班考謀長

本職連絡手首長トシテ勤務中 艦隊要務考謀長ヲシテ掌理セシ
ル要アルニ付連絡委員横井少將ヲ久野大佐ニ變更方取計レ度

麻屋三九〇番電 發麻屋連絡手首長 宛軍務向長

當方面現在延通信不如意ナリ為延駈ニ関スル情況一切不明最近ノ
情況至急通報相成度

麻屋三九二五番電 發麻屋海軍連絡手首長 宛軍務向長

中央委員麻屋旅遣日通知ヲ得度

〃麻屋三九八〇番電 發麻屋連絡委員局長 宛軍務向長
一貴三三〇番電聞稱四四九五(ヨコイ) KC受信(類)四四八五(ヨコイ) KC送信

(一話)準備完了

二 先遣隊航空機トノ連絡ハ無線ナリ又電話ナリ又厚木ニ於テ得
タル通信連絡上ノ参考事項知ラサレ度

三 東京ヨリラ間通信一三七四〇 KC直接待受ヲ開始ス呼出符号知ラサレ度

麻屋三九一〇番電 發連絡委員局長 宛軍務向長 通報(九州地方艦隊)
麻屋地区米軍進駐ニ對シテ諸準備ハ交通ノ不如意ニ依リ著シク遅

延シアリ之カ復旧ト關係員ノ利用ニ對スル便宜供與ヲ焦眉ノ急
トスル狀況ニ付極力促進援助方取計レ度

麻屋三九二三五番電 發麻屋海軍連絡手首長

宛軍務向長 大海空一部 佐鎮 S/H

一 治安

い 漸次平靜ノ度ヲ増シ兵員及市民共ニ帰還數ヲ増加シテアリ

四 麻屋中ヲ管理中ナリシ衣糧需品ヲ海軍側ニ接收給子

RA'-0108

0128

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0153

一、佐鎮保安隊本隊、中八〇名本三十日佐世保発
二、稚行場清掃作業續行中ナルモ輻圧作業ハ主工勞務者ノ
不足、為本日實施出来ヌ明三十日ヨリ開始九月二日迄ニ主骨
走路誘導路及前庭大部ハ輻圧完成ノ見込
三、宿舎設備

引續キ作業續行中ナルモ有職工員不足、為進捗意ノ如ク
ナラス現状、儘ニテハ未駐迄概成困難ナリト認メラルルニ至リタ
ルヲ以テ更ニ近縣民間専門工員ヲ動員シ万難ヲ排シ九月二日迄
ニ大部ハ粗末至ラ概成セシメントス

四、車輛
貨物自動車七乗用車一バスニ実働本日陸軍貨物車二九乗用車八
到着(外三五台未着)燃料車佐鎮四指宿五車良一航空廠一
計一〇台入手、且ヒ燃料タンク(完全不明)トラック一數台(完全未
着)

調査)應急車(起重機車)ニ(完)救護車一入手見込當陸軍方
面照會中、消防車ハ炭酸ガス噴射式ノモノハ無キモ普通消防
防車ハ民間等ヨリ若干入手ノ見込在、如ク車輛關係ハ準
備可能數極メテ少キヲ以テ先方ヨリ所要數携行ノコトニ折
衝アリ度

五、内務省以外ノ各省連絡委員大部未着セリ通談陸海軍
關係約キ名到着

六、高須及古江海岸揚塔準備作業本三十日ヨリ兵力及民力
計五〇〇名ヲ以テ急速開始順当ニ進捗シツ、アリ
麻屋三三三五番電 發麻屋連絡委員長宛大海參一部長
貴機密第三四〇番電ニ依リ水路嚮導船旅出日時及場所ヲ変更
セラレタル処上陸日時ハ変更ナキヤ
麻屋三三三五番電 發麻屋連絡委員長宛軍務局大海參一部佐鎮 GB S/P

RA'-0108

0129

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

一 飛行場

本日より搬圧準備作業を引續き一部搬圧作業を開始せしむ「ローラ」
可動数不足を爲進捗意、如クナラ極力整備に努め且徹夜作
業を續行更ニ本日夕刻到着セル世係設営隊(残り全部)ヲ使
用シ九月三日一杯ヲ前庭、四分、三八搬圧完了シ三日、先遣隊ノ
收容ニ充分ニ充テ残り四分、三日更ニ引續キ作業ヲ実施シ
完成ノ見込滑走路誘導路及エプロン(鋪 設部)内外、地
域(芝生)ハ彈痕無數ニシテ地盤モ一般ニ弛ミアリテ絶体ニ飛行
機ノ侵入不可能ナルニ付明確ニ通知アリ度

二 宿舎

充テるべき宿舎、中本部廳舎ヲ除キテハ比較的順調進捗
シツ、アリ
本部廳舎ハカラス作業遅延シタルモ、バテラ佐世保ヨリ送

三 車輛

一 擧ニ仕上テ進駐進駐間ニ合ハセントス
米軍ニ充テ得ルモノ現在左ノ如シ
イ 乗用車八(海軍民間各一〇台未着)
ロ トラック二九(海軍三〇、民間二〇未着)
ハ バス 二(鉄道民間手配中)
ニ フロントザ 使用シ得ルモノナシ(陸軍調査中)
ホ トラック一(陸軍調査中)
ヘ 起重機車一
ト 救護車一(明日宣崎ヨリ調査輸送ノ予定)(陸軍調査中)
チ 佐世保ニ手配中
リ 消防車一(陸軍民間ニ手配中)
左ノ如ク使用シ得ル車輛極メテ少ク故障ヲ起シ部品ナク修理

0154

RA'-0108

0130

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0155

1

0155

困難等ヲ豫想サルニ付米軍ニテ極力持参スル如ク折衝アリ度
 四宿泊設備
 (一) 毛布及蚊帳ハ入手可能ノ見込
 (二) 床台三〇〇名分ハ三日迄ニ極力輸送完了ノ見込ナルモ茶布團
 一三〇〇入手可能地ハ置テ代用ノ予定
 五 左右不充分ナル莫ク除キテ八九日三日先遣隊ノ麻屋着陸ニ之ニ
 對スル援助可能ナリ

RA'-0108

0131

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

東通ロー一六四八番電 發軍務局長 宛鹿屋連絡委員長
 聯合國最高司令官ヨリ右ノ未電アリ夫々然ル可取計レ度
 一必前ニ通報セル鹿兒島灣内諸施設ヲ領後ニシテ航行繼續ノ船舶燃料
 補給ニ爲鹿兒島灣ヲ使用スル必要生マヘシ依テ現地軍事當局ニ對シ
 所掌ノ指令ヲ發シテ度
 二鹿屋地域進駐ニ関シ行動改正日時左ノ如シ
 先遣隊一九四五年九月三日主力部隊九月四日上陸スヘシ依ツテ日本
 船一九四五年九月三日遅クトモ午前六時迄南九州佐田岬ヨリニ七〇度
 ニシテ附近ニ於テ合衆國ノ海軍部隊ニ會合シ該部隊ヲ鹿兒島
 灣ニ導入スル事ヲ望ム
 日本船ニ通譯有(複数)ト共ニ八人先東京内ニ準備シ置クヘシ
 前記指令一九四五年八月三十日マニラニ於テ日本國代表ニ手交セラ
 レル事求事項ニ第四項又書第九節ノ條項ニ代シテテリ接受確

認テ度

東通ロー一六四八番電 發大佐 宛五航艦
 八月二十日マニラニ於テ校方方ニ手交セラレタル聯合國最高指揮官要
 求事項第三四項ニ依リ九月三日一〇〇〇噸鹿屋基地揚陸スヘシ米英
 國先遣隊ニ對シテ充テタル安全及援助ヲ共ニヘシ(大本營ハ聯合國ニ對シ
 保障スルノ責ヲ有ス)
 鹿屋ロー一六五五番電
 發鹿屋連絡委員會 宛終戦連絡委員會
 鹿屋方面第一遣駐兵力知ラレ度
 東通ロー一三五五番電 發次官次長
 本年九月九日降伏文書ノ調印式ヲアス同日之ニ因ルニ諸書ヲ發
 セル政府大本營布告(降伏文書註一般命令第一號)及之ノ關係
 以大海指特第一號發布セルテリ(内容何レモ別電ス)

0157

濟州の三〇七三五番電
一、米掃海艇二隻(米敷設艇一隻)の三〇掃海開始セリ
一、本日上陸部隊に伴う居スル明四の入港予定ナルト判明セリ
三、以下略

鹿屋の三二二〇番電
発鹿屋連絡委員長 死陸海軍次官次長外務次官佐鎮 G B GAF
四部軍 六航空各参謀長

一、二〇現在先遣隊未到着ス先遣隊ト連絡ナル各委員飛行場ニテ待機中
一、米海軍掃海艇十隻駆逐艦一隻濟州嚮導ノ下ニコソ頃ヨリ掃海ノ實施シタル上二〇頃高須及古江海岸附近行動中
鹿屋の三二五〇番電 発鹿屋有前電ニ全シ
一、三三〇タラスニ機ニ指揮官レリ陸軍大佐(N. D. S. L. I. N.) 外務技

七名下士官兵六名計一四名着
鹿屋の三三三三番電 発着信有前電ニ全シ

一、先遣隊進駐無事完了、高方面治安確保ニ不安ナシ
二、彼我交渉ハ円滑ニ行ハシ重大問題ナシ
三、鹿屋飛行場及掩体地區大部ヲ米軍専用地域トシ一切日本人ハ右區域内ヨリ撤退コトニ決定但シ居住民ハ儘サナリ
四、明日進駐ニ関シハ詳細不明モ早朝ヨリ輸送機一〇及至五機來着又二〇頃高須方面ヨリ上陸開始(戦車ヲ)進駐兵力約二五〇名予定

濟州の三三三〇番電
明日米軍上陸部隊ニ関シ知得セハ事理左ノ通り
指揮官「セン」大佐(駆逐艦五五二掃塔ヲ來)
一、上陸海岸ハ不明モ七鋪地ハ高須沖ノ模様「セン」大佐明日決定ス

RA'-0108

0133

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0158

二上陸用輸送船中判明シタル船名九六五号六七四号五五五号一〇九号
 六三〇号計五隻(戰車有キル由ナリ)
 濟州〇四〇六三〇番電
 〇五三〇船團ノ合同〇六三〇船團導引開始〇九〇〇着ノ予定
 船團上陸用舟艇六其地海軍十艦艇十五隻
 東通〇三一九三〇番電
 一陸軍務局長 元陸軍連絡本員長 通報佐鎮參謀長
 一陸軍方面第一進駐兵力ハ一五〇〇名ニテ空輸及艦船ヲ到着
 スルモ其ノ区分不明ナリ
 一右一五〇〇名ハ專飛行基地勤務員ニシテ將來別ニ進駐スルコトアルヤ
 元其ノ兵力及時期ハ未定
 東通〇三一九三〇番電(四二〇三三五受信)
 一發總長大臣 元部内一級
 一級命令第一號(陸海軍)略

鹿屋〇四一三〇四番電 元陸軍連絡本員長 元軍務局長
 當地於此折衝上必要ニシテ既ニ有キ木橋濱ニ於テ連絡折衝結果
 決定セル協定事項至五心通知シ得度
 鹿屋〇五一九四七番電
 元陸軍連絡本員長 元陸海軍官次長 元外務次官
 通報西部軍 五航艦 佐鎮
 一本月降着セル輸送機約七十機
 二進駐軍指揮官ハ第一次進駐兵力三三〇〇名ト言明セリ
 三二日二二〇〇米浮上房一名大舟由ヨリ長崎經由當地ニ逃シ去ルヲテ昨
 四日〇三〇〇日本憲兵保安隊通譯各一名ヲ附シ大舟由ニ還送セル者
 當地進駐軍指揮官ニ通知シヨケリ
 東通〇三一九三〇番電 元軍務局長 元陸軍連絡本員長
 東通〇四一三〇四番電返シテ都度通報シアルモノ外特ニナシ

RA'-0108

0134

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

鹿屋〇六〇七四六番電

発連絡委員長

陸軍務局長

通報佐鎮参謀長

當地進駐軍指揮官ニ対シ鹿屋島内ニ於テ一〇〇名以下ノ舟艇ノ支
通渡揚許可ヲ要請セリ中央支隊ニ依リ度旨回答アリ至急折
衝解決アリ度

東通〇六一五五七番電

陸軍務局長

死部内一般

左ノ地ニ聯合軍進駐ノ中艱又ハ諸主要港灣トテ予想セラルルニ付
夜任衛生施設(瓦斯水道下水等々含ム)陸上運輸並ニ港湾施設
(修復資材々含ム)等ノ関シ予メ資材ノ準備ヲ置キ進駐部隊
ト内滑ナル折衝ヲ期スル度

東京横濱

館山

鹿屋

青森

小田原

札幌

下関

福岡

佐保

長崎

横須賀

大塚

京都

神戸

名古屋

高知(以上陸上)

長崎

佐保

改神

青森

名古屋

仁州

釜山

小樽

東京

横浜

八幡

下関

(以上港湾)

鹿屋〇六一五五番電

発連絡委員長

陸軍務局長

陸軍海軍次官次長外務次官及防鎮SAF長官

一、米軍進駐ノ順調ニ海兵施ニレ第一、次進駐概不終了セルモノ知
四日入港セル輸送船荷役ハ六日午後終了七日早朝出港セル
尚船艇約十隻沖合ニアリ

二、進駐件ニ金錢物品掠奪ノ小事件ニシテ發生セルモ證據確ナル

モニ対シテ進駐軍ハ誠意ヲ以テ解決ニ當リツルアリ

三、勞働力提供ニ對シテ要求ハ當初打合ニテハ一日三百名程度ナリシモ逐
日増大月下六五〇十日以降ハ八百五十名増大ノ見込當方十名
ノ目標トシテ地方的ニ準備中

四、進駐ニ関シテ諸支隊ハ概不(一)應終了爾今ハ主トシテ警備ノ及勞力
物資ノ提供等地方ニ直接關聯スル事項トナレラ以テ委員會

200
3

内部機構を逐次外務省に地方總監府縣等ヲ主トスル如ク改編

東通ハ八五五八番電

陸軍務局委員 元鹿屋連絡委員長

一連絡委員會ハ逐次外務省ノ現地機關ヲ主カトスル編制

(主要軍部委員ヲ含ム)ニ移行シ概テ本月末ニ之ヲ完了セリ度

中央ノ方針ナリ

ニ終戰連絡機關トシテハ外務系終戰連絡中央事務局(東京)

地方事務局(横浜、京都)ヲ設ケテ主要市ノ當地ニ地方事

務局出張所ヲ置カレテ定

0160

RA'-0108

0136

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

八二五番電

宛内閣終戦連絡委員会 發度屋連絡委員会

通譯運轉手人夫等、身分取扱特ニ給與ニ因シテ、地方的

事情ヲ考慮、上決定スヘキモ、今後進駐地域擴大ニ伴ヒ相

互ニシキ懸隔ヲ生シハ不都合ヲ生スヘキヲ以テ中央ヨリ大

體ノ標準ヲ示サルヲ適當ト認ムルニツキ至急決定通報

ヲ得度

八二五番電

發度屋連絡委員長 宛陸海軍次官次長 第二總軍

參謀長 鎮西參謀長 西部憲兵司令官 福岡俘虜收

容所長

九月七日進駐部隊本部ヨリ左記申入レマリ日本官憲

一切聯合軍俘虜ヲ聯合軍ノ掌中ニ入ラシムヘキ

事ニ關シ一切可能ナル援助ヲ與フヘキヨリ及本要請書

進セルル爲ニ米軍憲兵三名ヲ居留場停車場ニ派遣

本地區ヲ流入スヘキ俘虜ヲ能行場ニ連行スヘキヲ以テ

日本側ハ一切之ニ干與スヘカラス

從テ今後各地トシテ流入シ来ル俘虜ノ所屬氏名

ヲ直接取調ヘ不能ニシテ將來中央ニ於テ此俘虜ヲ

渡シ交渉三種ノ問題ヲ予想スルルヲ以テ俘虜ノ無

制限旅行阻止ニ因シテ緊急措置ヲ講スルノ要アルモト

認ム

現在在道本委員会ヲ通シテ進駐軍ニ引渡セル俘虜ハ

四三名ナリ尚九月七日高地ニ到着セル英俘虜一名ハ進駐

軍ノ要求ニ依リ川崎第八收容所ニ送還セリ

0161

東通一〇一八二五番電

發井澤軍務局員宛鹿屋連絡委員會
連絡委員會ニ要スル一切ノ經費ハ大藏省經費支辨ノ
事ト承知アリ度

鹿屋一二五五〇番電

發鹿屋連絡委員長宛陸軍海軍次官次長外務次官
當方ハ米軍ニ對シテハ誠意ヲ以テ之カ連絡ニ當リツツアルモ
昨十日米軍ヨリ委員會宛米軍ノ指令ニ對シテ之ヲ回避
シヌハ服從セサル事例アリトシテ諸施設ニ關スル重要
ナル青島員國ノ所謂燒失(一)從前主要地位ニ在リタ
ル人物ノ所謂不在等ヲ擧ケ今後迴避乃至消極的抵
抗ノ行為ヲ續クルニ於テハ當本部ハ聯合國最高司令官ニ
對シ委員會ヲ除去ヲ求ムルコトヲ(二)トシテ要求アリ未
ト

方面ノ破壞並ニ人員資材ノ分散ニ依ル混亂交通通信不
如意等ノ特殊情況ヲ認識セシメ得サルニ依ル處多キモ一
面米軍ノ組織的技術的要求ニ對シテハ更ニ連絡ヲ密ニスル
ノ要アリト認ムルカヤリ今後當方ノ實狀ト誠意ヲ極力
了解セシムルコト共ニ要望ノ實現ヲ速カラシムル如ク連絡中ナ
ルモ一應念々置カレ度

高折衝員トシテ先ニ請求ノ外務省關係者(書記官級ニ
事務官級ニ)至急派遣ヲ望ム

鹿屋一二三四五番電

發鹿屋連絡委員長宛內閣連絡委員會
遠東島嶼下島(種子島屋久島大島等)ニ對シ連絡
ノ要ニ對シテハ(一)領事機關船ヲ以テ實
施差支無キヤ

0162

0163

東通二三四五番電

發軍務局長 宛鹿屋連絡委員長

貴二三四番電返

鹿屋方面進駐軍、了解ヲ得タル上實施差支ナキモノト
認ム

鹿屋二二四五番電

發鹿屋連絡委員長 宛次官次長佐鎮長官並特戰司令官

進駐軍、鹿屋島灣内ニ於ケル一〇噸未満ノ舟艇、航
行差支ナキ旨非公式ニ通告アリタリ

東通二四一九番電

委員會經費、外務省ニテ予備金支出ナリ詳細ハ返テ
外務省、指示アル筈ナルモ其レ迄、午持金ヨリ支替相成
度總務課長了解済 土屋事務官

鹿屋二二七二番電

發鹿屋連絡委員長 宛大本營陸海軍部次長 陸海外内

務各次官 佐鎮ニ總 鎮西九州總監府

米兵ニ依ル食品盜難事件、高須古江方面ニ若干發生
シ其大部分、單ナル好奇心乃至、蒐集癖ニ基因スルノ

ト思料セラル、左記ニ件ハ明ニ現金取事件ト同ナル
ルヲ以テ事件経緯、並米側ノ態度、圖ニ概要報告ス

高須郵便局事件

九月五日高須郵便局保管ノ現一萬二千五百元及
切手類(五千六百元)取付金一〇〇元(五千六百元)柱跡計四圓

昨計各一箇密取セラレタルヲ又刻ニ呈リ發見ス

委員會、右報告ニ基キ直ニ進駐軍核動部隊司令
官ニシテ大佐宛抗議ヲ提出ス

RA'-0108

0139

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

以下略
以下相前後に高須附近に逃視せし進駐軍輸送補給
係了スホシ大尉ハ偶々本件ヲ聞知シ直ニシリン大佐、指
示ヲ仰キ徹夜調査ニ上出航直前、輸送船、停止ヲ命
ジテ検査セル結果現金(略切手)略発見本委員会會ヲ通
シテ前記郵便局ニ返還シホシリ高船中ヨリ衣類、金
類、煙管、女下駄アルハム其他雜品多数ヲ発見ス

東通一四一三二六番電
發軍務局長 宛各鎮各營參謀長 廣屋連絡委員長
連絡委員會ニ於テ使用ニ通譯、身分給與ニ關シ中央終戰事
務連絡委員會ニ於テハ通譯決定ヲ見タリ
一身分外務省囑託(委任又ハ判任待遇)又ハ雇(臨時勤務者)
臨時囑託又ハ雇

一給與 經歷能力ニ依リ月給一〇円乃至二五〇円(臨時勤務者ハ
月給五円乃至一〇円)右外勤務振込應シ適當ニ精勤手当
ヲ給與ス

二支拂場所 東京中央事務局 地方現地機關
東通一五二五三番電
發軍務局長

羽田飛行場使用不能(米劍引渡)トナリタニ付爾今
板戶陸軍飛行場使用ノトニ承知相成度
佐通一五二七五番電

發日本銀行福岡支店長 宛進駐軍 廣屋連絡本部 吉海大藏省
監督官
駐屯費振込金額一三五万円
振込先 廣見島興業銀行 廣屋支店 出官

SECORAL LIEUTENANT GORDON L. W. RIGHT.

(セコンドリーエウライント コルトン エル ライト)

尚右ノ旨日本領ノ鹿児島支店へ連絡アリ度

十六日鹿児島発信

(一)鹿児島縣下島交通ニ中央支店ニ依ルキ日ノ電

(二)解放停滯等ニ因スル電

右應風時電信室倒壊時紛失

東通一七四五番電

陸軍務局長 宛鹿児島連絡委員長

本日附内閣閣令ニ依リ山路公使現地に到着時ヲ以下鹿児島

連絡委員長ノ事務ヲ同公使ニ引継ク旨發令セラレタリ

同公使明十八日〇八三〇列車便ニテ東京發テ予定

東通二一九三番電

陸軍務局長 宛鹿児島連絡委員長各鎮各警署各謀長

一進駐軍ニ対シ地方連絡機構ヲ通シ

(一)軍及軍團進駐地ニ地方事務局ヲ設置局長ニ外務省

ノ高等官ヲ配シ關係各官廳(部隊)ニ所要連絡官ヲ之

ニ派遣ス

(二)師團以下ニ対シ各縣廳(小兵力ニ対シテ)地方事務所警察市

役所(中心トナリテ)ニ対シテ關係各官廳(部隊)ニ之ヲ

接助ス

(三)在連絡委員長會ヲ編成發足シテ向ハ進駐一段落後

遂次右ニ移行スルモノトス

東通二四〇九三番電

陸軍務局長 宛 部内一般

一聯合軍進駐ノ旨ヲ標示補給貨及従来ノ月通

貨(政府紙幣紙貨)含シテ使用之ヘシ其、必要トスル内貨
進駐軍最高司令部エーテシ中佐(金融主務者)ニシテ
日本銀行ニ口座有ク、指示ニ基キ指定銀行ニ於テ同中佐
指定ノモノニ交付スルコトニ定メラル
内地ニ於テ米國通貨ヲ含ム一切ノ外國通貨及日本銀行
新ニ軍需占領地通貨ノ流通並ニ細部取引ニ於ケル之等
通貨ノ授受禁止セラル居ルニ付進駐軍創子之等ノ通貨
西替ノ要求ヲ受テタル場合ニ之ニ應ズル事ナリ期日場所
宛部隊名等ヲ中央當局ニ通報サレ度但シ已ラ得サル場
合ニ日本銀行代理店等ヲ指定シテ部隊代表者在任務
所要ノ内通貨ヲ一括交付セシメ同部隊及銀行ノ双方
ニ於テエーデルマン中佐ニ對シテ所要ノ整理手續ヲ取ラ
ルニ様取計ニ度

大分ニハハ番電
發渡屋連絡委員長 宛陸海軍次官次長外務次官

知佐領(長官)
十七日鹿屋地方猛烈ナル颶風通過貨ノ為相当大ナル被害アリ
電力電信電話全部不通未タ復旧ノ見込之タス進駐
軍ニ於テ無線飛行機及船舶ニ相當ノ被害アリ南基地電
力復旧迄送受信共不能重要電報大分ヲ使送ノ
コトニ取計ニ度

東通ニ二五四番電
發海軍大臣
一九四五年十月三日迄ニ完全且徹底的ニ解除スヘシ
一九四五年十月三日迄ニ完全且徹底的ニ解除スヘシ
一九四五年十月三日迄ニ完全且徹底的ニ解除スヘシ

0166

RA'-0108

0142

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
国立公文書館 アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
National Archives of Japan

甬右警戒ヲ要スル食糧及衣類ノ倉庫ハ民間警察
ニテ警戒スヘシ其ノ日迄ニ聯合軍ニ移管ニ得サレバ
彈藥ヲ民間警察ニ依リ警戒スヘシ
各鎮警戒隊ニ於テハ右期向迄ニ合海軍保安隊ヲ解
隊スト共ニ兵器彈藥及衣糧等ノ保管監視ヲ警察
ニ移管スヘシ

鹿屋ニ四一〇番電

發鹿屋連絡委員長 宛佐鎮長官

貴三三四五番電返九月二十日六〇〇平五日五〇〇月末迄ニ殘

リ全員解員一部復航ニトニ予定シマリ

鹿屋ニ四四〇番電

發鹿屋連絡委員長 宛佐世保施設部長軍需部長
鹿屋航空隊及航空廠内暖房施設配管熱者至

急汎遺アリ度

鹿屋ニ四四四番電

發鹿屋連絡委員長 宛軍務局長

鹿見島縣下南方島運航部直下通りヲ至急

折衝ヲ取計アリ度

一使用船舶航路

(一) 金十九五七三比定員八。貨物一八色ノセル鉄船速

力八節航路往航 鹿見島中島早町湾古仁屋電

徳和泊與論復航ニ往航一往復所要日數八日

(四) 十島九〇五五比定員三。貨物一。色ノセル鉄船速力六節

航路往航 鹿見島竹島硫黄島黒島只島中島取

蛇島平島又ワセ島 惠石島宝島古仁屋復航ニ往

航一往復所要日數十日

0168

二月十日手是航海回数
 金十丸三航路 十島丸 二航海
 三車輸送物件
 四食糧米一十車約五千石
 五人員約五〇〇〇人(陸海軍復員者及工場従業員帰還者)
 六其他塩 藥品 銀行券等
 鹿屋二六三番電
 陸屋連絡委員長 宛 軍務局長
 一本日送(受信復旧)
 二山路公使未到着セズ行動知ラザレ度
 三当方面颱風被害相当甚大ニシテ電燈及水道ハ大部
 復旧セズニ尚検討等ハ復旧ニ相当日数ヲ要スル見込
 東通二六一八〇七番電

陸軍務局長 宛 外務謀長 各軍需部長 航空局長
 進駐米軍ニ於テハ武器等接收ノ為十月初頭以後各地
 二担任撤収ヲ特設シ迅速處理ノ準備ヲ進メソツアルニ付
 肉俵各部ニ於テハ右ニ應ジ遅滞ナク引渡ヲ完了スル様
 手配シ置カレ度
 東通二七七五二番電
 陸軍務局長 宛 鹿屋連絡委員長
 山路公使二十日青島都發列車ニテ赴任
 鹿屋二七六四五番電
 陸屋連絡委員長 宛 陸海軍次官 次長 外務次官
 卯佐鎮 外長官
 一当基地進駐軍指揮官シリン大佐ハ北海道及青
 森方面ニ進駐スルニトトナリ明二十八日發ノ予定ナリ

RA'-0108

0144

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

後任者ヤブコマン大佐(第五航空隊)并繩了既ニ到着
 清ナリ
 二山路公使明二十八日ニ。着岸予定
 三進駐軍日數日前より下生信無ニ對シ晝夜共市内自
 由外出有許可也。今處大ニ事故ナリ市内遊廟ヲ
 進駐軍專用トシテ提保シテ更ニ別箇所ニ專用
 懸安所ヲ設置之也。ハ許由中。

0169

外務省

聯合進駐軍連絡委員會回報第一號九月十二日
 本員終戰連絡軍事事務局殿

委員長

一情報

一最高司令部指令書添付
 二九州總監府ニ於テ關係官廳關係市長ヲ召集 聯合軍取寄
 司令部指令書交付ニ伴ヒ海軍側ヨリ鹿屋ニ於ケル進駐狀況
 總監府官房主幹ヨリ神奈川縣進駐狀況等ヲ説明ナリ
 副總監ヨリ今迄 經驗ニヨリ進駐軍連絡委員會設置ノ
 必要ヲ認シ旨ヲ開陳アリ 縣ニ於テハ左記 關係者ヲ明十三日午
 后一時ニ分縣參事會室ニ召集方ヲ申出ナリ
 西野參謀 海運局長佐々木港務課長 總監府
 吉住參謀 遞信局長 山本副參事
 海軍 柳瀬少佐 遞信局長 山本副參事
 憲兵司令部 柳瀬少佐 遞信局長 山本副參事
 建設部 柳瀬少佐 遞信局長 山本副參事
 建設部 柳瀬少佐 遞信局長 山本副參事

0170

RA'-0108

0145

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
 国立公文書館 アジア歴史資料センター
 Japan Center for Asian Historical Records
 National Archives of Japan

0171

聯合軍最高司令部指令書

聯合進駐軍ハ日本帝國政府中央連絡委員會ニ對シ下關、福岡、間ノ地域竝ニ便宜ノ供與方ヲ要求ス

一、聯合總軍最高司令官代表ニ依リ撰擇セラレタル次ニ述ベル諸設備ト便宜ヲ下關、福岡地域ニ於テ進駐軍ノ到着ト同時ニ使用シ得ル様取計方要求スルモノナリ

聯合軍最高司令官代表ハ諸設備便宜ノ適否ノ偵察ト檢閲ヲ九月十五日頃ヨリ開始ス可シ

指示サレタル諸便宜ヲ熟知セル二十人ノ官憲ト「ガイド」ガ其レニ必要ナル輸送車ト通譯ト共ニ當日竝ニ其ノ日以後此等ノ代表者ニ同伴シ得ラレル様希望ス

二、設備便宜

a 飛行場

福岡縣

總テノ設備便宜ヲ其ノ儘トス

b 港 灣

長サ四五〇呎 吃水三〇呎 船ノ碇泊地最少限三ヶ所

長サ二〇〇呎 吃水二二呎ノ碇泊地三ヶ所

吃水六呎ノ浮用突出棧橋三ヶ所

吃水三四呎ノ油槽船用燃料積上突出棧橋一ヶ所

c 石油貯藏庫

最少限十一萬五千(米)樽ノ收容力及燃料用突出棧橋又ハ埠頭トノ

連絡設備トヲ有スル

陸上荷集積所

d 宿舍、司令部職員用

(1) 十名以上ノ將官ノ爲メノ相應ナ設備竝ニ裝具ヲ有スル適當ナル

ホテル又ハアパート

(福岡1)

福岡縣

(2) 五百名以上ノ士官ノ爲メノホテル設備又ハ之ニ準ズルモノ
 e 宿營地及バラック建築物、進駐軍ノ爲メ必要ナ範圍
 f バラック宿舍、兵員一名ニ付キ六十平方呎ノ基礎ニテ計算シ一千
 名ヲ收容シ得ルモノ三棟建カ三ツニ仕切り得ルモノ
 (但シベット寢棚及寢具附ノ必要ナシ)
 g 隔離セル露營地 二千名程度ノモノ
 h 病院一基ニ付キ百平方呎ノ余裕ヲ有スル寢臺 三千五百臺
 i 事務所用地、事務所用トシテノ設備器具ヲ完備スル三五萬平方呎
 ノ地所
 j 自動車溜用地 地均シ濟ノモノ二〇萬平方呎
 k 有蓋倉庫 二二萬平方呎
 l 無蓋倉庫 七〇萬平方呎
 m 作業場(修理工場)一六萬平方呎
 n 冷凍倉庫 二四萬四千立方呎
 o 輸送設備
 乗用自動車 五〇臺
 トラック一噸又ハ二噸ノ積載量ヲ有スルモノ
 p 通信施設
 有線、ラジオ、電話等ノ設備ハ聯合軍最高司令官ノ代表者ノ要
 求ニ應ズルコト
 q 公共施設
 電力、電燈、水道、煖房、衛生施設其ノ他ノ諸施設ハ茲ニ記載
 ノ凡テノ設備ニ必要ナリ
 r 建築資材及器具
 木材、セメント、瀝青、砂利、道路、其ノ他ノ資材及用具ヲ必
 要トス
 s 勞力

(福岡一)

組織立ツタ監督ノアル勞働力ガ必要ニ應ジテ提供サレル様準備
シテ置クコト

三、上記建物設備等凡テガ進駐聯合軍ニ移讓サル場合ニハ清潔ニ衛生
的ニ使用目的ニ副フ様ニ又直チニ作業ガ出來ル様ニ準備シ置キ特別
附言シタルモノハ其ノ通りニ設備シテ置クコトヲ要ス、自動車ハ有
資格運轉手ヲ配シテガソリン其ノ他ヲ充分ナル活動ニ任ズルモノヲ
用意シ置クベシ、燃料其ノ他ノハ進駐聯合軍ガ之等ノ乗物ヲ使用ス
ル期間中支給サルベシ

一九四五年九月九日

最高司令官ノ命ニヨリ

署名 ハロルド フェヤー

米陸軍中佐
軍務局長

福岡縣

0173

RA'-0108

0148

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0174

聯合進駐軍連絡委員會週報第廿二號 九月十三日
委員長

決定

午後三時昨十日召集方申置下委員各員先キ者參事會室
二參集 最高司令部 指令書ニ基テ 諸調查事項付左
記通相當者ヲ定メ各担當者ニ於テ之ガ資料ヲ取
明十四日午後二時迄ニ參事會室ニ持參集合申合セテ
設備關係

飛行場
港灣
石油貯藏庫
宿營地及バニク建築場
兵舎
離陸路營地

海軍及陸軍
總監府第四部
縣及關係市

8. 病院
7. 事務所
6. 自動車溜用地
5. 有蓋倉庫
4. 無蓋倉庫
3. 作業場(修理場)
2. 冷凍倉庫
1. 輸送設備
16. 通信施設
17. 公共施設
18. 建築資材及器具
19. 勞力

縣及市
海軍及縣
總監府第三部及縣
總監府第四部及縣
縣及各市

RA'-0108

0149

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0175

聯合進駐軍連絡委員會回報第三號 九月十四日

委員 殿 委員長

一決定

委員タルベキ者參事會室ニ集合シ知事ヲ本委員長トシ
委員會ヲ組織スルコト、シ其他左ノ事項ヲ協議セリ
ハ委員メンバー、決定（別紙ノ通り）
ニ莫ク次指令書要求事項ニ対スル事務分担決定
（別紙）
聯合軍最高司令部要求事項ニ対シ説明
資料、決定

RA'-0108

0150

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

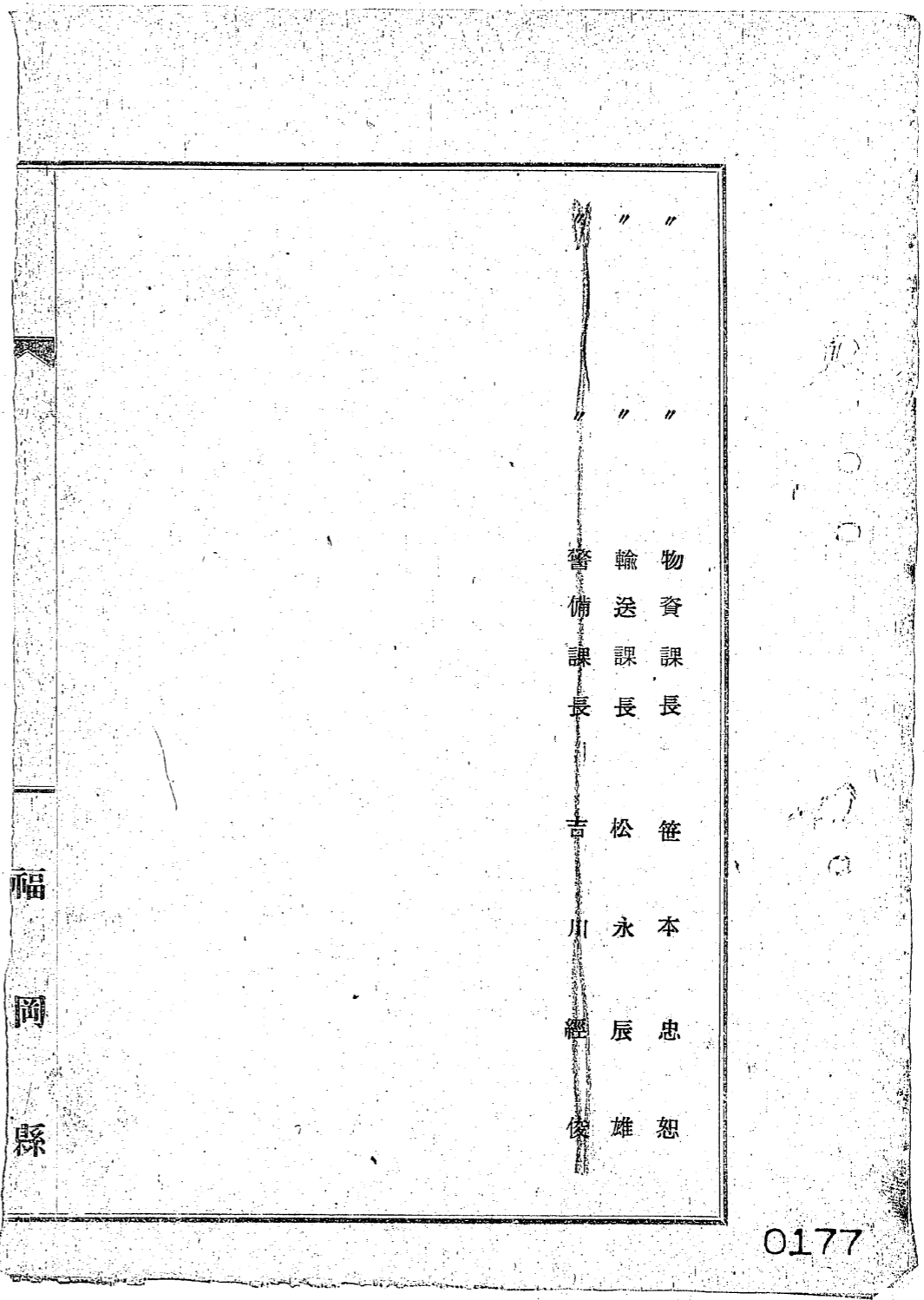
Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

第五航空艦隊 海軍少佐	永瀨 芳雄
態本遞信局業務部長	本多 元吉
福岡遞信管理部長	淺尾 繁一
門司鐵道局總務部長	中村 卓夫
九州海運局港務課長	佐々木 越夫
第四港灣建設部工務課長	片岡 謙
態本財政局福岡支局長	吉武 久賀
態本專賣局福岡支局長	高橋 敬次
福岡縣 外事課長	美馬 郁夫
外事警察課長	山田 吉春
庶務課長	川瀬 善一
衛生課長	杉野 爲治
食糧課長	大野 喜一
福岡縣 內政部長	櫻井 三郎
警察部長	沙谷 薫
經濟第一部長	青柳 秀夫
經濟第二部長	柴田 高義
土木部長	飯野 磯
西部軍司令部 陸軍中佐	飯野 隆
西部憲兵隊司令部 憲兵少佐	柳瀬 隆
門司武官府 海軍少佐	吉住 隆
福岡縣聯合進駐軍連絡委員會委員長名簿	山田 俊介
福岡縣知事	南雲 克太郎
外務省一等通譯官	鈴木 榮二
九州地方總監府副參事官	山本 菊一郎
委員	櫻井 三郎
委員長	青柳 秀夫

RA'-0108

0151



福岡縣

” ”
” ”
警備課長 吉川經俊
輸送課長 松永辰雄
物資課長 笹本忠恕
物資課長 笹本忠恕

0177

RA'-0108

0152

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

聯合軍最高司令部
第一次指令書要求事項ニ對スル事務分担

A. 同伴官憲
ノ縣廳關係

主務者

協力者

又各

縣各部
助野中佐
飯野中佐
永廣少佐

B. 通譯
ノ陸軍

縣外事警察課長
現地ニ於テ用意シアリ

ニ設備便宜

飛行場
又海軍

飯野中佐
永廣少佐
佐々木港務課長
片岡港務課長

C. 石油貯藏庫

鈴木副参事官
山本副参事官

d. 宿舎

内政部長

警察部長
飯野中佐
永廣少佐
谷市助役
外務課長

e. 兵舎

f. 隔離セル露營地

g. 病院

h. 事務所

i. 自動車用地

k. 倉庫

m. 作業場

經濟第三部長
輸送課長

飯野中佐
輸送課長
外務課長
各市助役
又縣衛生課長
全飯野中佐

0178

RA'-0108

0153

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0179

為 倉庫
 為 關係
 經濟部第一部長
 警察部長
 水産課長
 輸送課長
 通信施設
 通信部
 業務課長
 建設資材及器具
 道路關係
 經濟第二部長
 土木部長
 警察部長

聯合軍最高司令部要求事項ニ對スル説明資料

福岡縣聯合進駐軍對策委員會

0180



指示サレタル諸便並ヲ敷知ルニテ人ノ官憲ガ下ニ通釋
及輸送車ハ本口以請何時ニテモ使用シ得ル物ヲ選擇スル

0181

飛行場 (設備其ノ他ニ関シテハ軍ニ於テ説明ノ豫定ナリ)

陸軍関係

雁ノ巣飛行場

彦田飛行場

彦屋飛行場

海軍関係

博多航空隊

福岡航空隊

小富士航空隊

0182

港灣

1. 長450呎 吃水30呎 離岸泊地 最少限3ヶ所
門司港

2. 長200呎 吃水22呎 離岸泊地 3ヶ所

関門港 (門司下関 若松) 博多港

3. 吃水 6呎 船用突出 桟橋 3ヶ所

1. 関門港 (門司 下関 若松) 博多港

4. 吃水 34呎 油槽船用 燃料積上 突出 桟橋 1ヶ所

下関港

註

1. 現在下関 海峡ニ於テハ 投下機雷 処分未済ノモノ 多数アリ

2. 沈船 隨所ニ存在シ 特ニ 大型 重吃水 船ノ 入出港ハ 極大ニ

危険ナル 状態ナリ

3. 兼 船ヲ 標入 機雷等ノ 暴発ニ 依リ 沈没 船 金属 等ハ 相尋 程度

ノ 損傷ヲ 蒙リ 居ルモノ 認メラルニ ツキ 使用ニ ツキテハ 保証シ

得ズ 但シ 目下 現状 調査 計画中

関門港

1. 聯合國 進駐軍ニ 対シ 港 停泊 施設ヲ 使用スル 場合 其 特質ニ 鑑

ミ 次 事項ニ ツキ 注意 供スル 度ニ

2. 運 送 船 隻 等ノ 通過 時 同側 由 交通ニ 対シ 事

3. 関門 運 送 船 隻 等ノ 通過 時 同側 由 交通ニ 対シ 事

4. 大陸 又ハ 南方 方面 則チ 引揚 邦人 及 帰還 軍人 揚陸ニ 対スル 事

1000
1000
1000

α 宿舍

北九州地區ニ於ケル宿舍左ノ如シ

將官用

門司市 ~ 門司ヲラフ 建坪 170坪 (6296平方呎)

收用人員 6人 水洗便所^有 (海軍保安隊使用)

三井ヲラフ 建坪 250坪 (9259平方呎)

收用人員 10人 水洗便所^有 (海軍保安隊使用)

八幡市 ~ 日鐵公餘ヲラフ 278坪 (10296平方呎)

收用人員 10人 水洗便所^有 (海軍保安隊使用)

三菱化性藥私療洋室 4和室²

水洗便所^有 (海軍保安隊使用)

士官用

八幡市 ~ 不二屋旅館 25室 水洗式便所アリ

” ~ 商工經濟會 200坪 (7406平方呎) 改造ヲ要ス

水洗便所アリ

戸畑市 ~ 彌樂會館 222坪 (8222平方呎) (和室3)

水洗便所アリ

門司市 ~ ナニ (6744.094平方呎)

下関市 ~ 山陽百貨店 / 8,200坪 5階建 水洗便所アリ

福岡市ニ於ケル宿舍 次ノ如シ

博多木ヲル 1400坪 (5185.5平方呎) 洋室 51 水洗便所アリ

士官用 一方亭 910坪 (3333.3平方呎) (和室不明)

水洗便所アリ

ク、宿營地及バラツク建築物
具體的要求ニ基キ準備ス

0186

于 熱帯

陸軍總司令部ニ付テハ、陸軍ニ於テ詳細説明ス

海軍關係は言ハズバ、

博多航空隊	機庫エントリ	= 階建	1,632 平方米	水邊併列
福岡航空隊	木造平家	38 棟	27,096 平方米	空知220m
小笠原航空隊	木造平家	38 棟	27,096 平方米	機庫可能
其ノ他			空 6,000 名収容可能	
有 警備	機道コンクリート	2階建、1階	1,150.00 平方米	水邊併列、
			年 1,000.00 名収容可能	

0187

RA'-0108

0159

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

事務所 (電灯、水道、水洗便所、設備了ルモ後房施設無し)

北九州地区ニ於ケル事務所所用建築物次ノ如シ

九州海運局 1,986坪 (173,555平方呎)

大倉倉庫 (自給)

1,113坪 (41,222平方呎)

郵便ビル 949坪 (82,144平方呎) 三井物産 1,234坪 (45,700平方呎)

五層デパート 2,000坪 (174,066平方呎) 井筒屋デパート 1,800坪 (66,666平方呎)

他日敏事務所 3,359坪 (284,440平方呎) 50モ大倉倉庫ヲ使用ス

場舎ハ日敏事務所ハ保留ヲ希望ス

福岡市ニ於ケル事務所用建築物

1. 岩田屋 3,250坪 (120,366平方呎)

2. 簡易保険局 5,000坪 (185,197平方呎)

簡易保険局ニハ九州總監府移轉ノ豫定ニテ共ニ
行政事務上必要ニツキ保留ヲ希望ス

3. 九大 (閣僚部ヲ除キ 30,000坪 (1,111,111平方呎))

九州席大ハ教育施設トシテ保留ヲ希望ス

1. 自動車留用地
 2. 工場所 海運局前空地
 3. 工場所 東公園龜山銅線前
 4. 工場所 倉北才藝專場
 5. 工場所 瀬山才藝
 6. 工場所 倉北才藝專場
 7. 工場所 倉北才藝專場
 8. 工場所 倉北才藝專場
 9. 工場所 倉北才藝專場
 10. 工場所 倉北才藝專場
 11. 工場所 倉北才藝專場
 12. 工場所 倉北才藝專場
 13. 工場所 倉北才藝專場
 14. 工場所 倉北才藝專場
 15. 工場所 倉北才藝專場
 16. 工場所 倉北才藝專場
 17. 工場所 倉北才藝專場
 18. 工場所 倉北才藝專場
 19. 工場所 倉北才藝專場
 20. 工場所 倉北才藝專場
 21. 工場所 倉北才藝專場
 22. 工場所 倉北才藝專場
 23. 工場所 倉北才藝專場
 24. 工場所 倉北才藝專場
 25. 工場所 倉北才藝專場
 26. 工場所 倉北才藝專場
 27. 工場所 倉北才藝專場
 28. 工場所 倉北才藝專場
 29. 工場所 倉北才藝專場
 30. 工場所 倉北才藝專場
 31. 工場所 倉北才藝專場
 32. 工場所 倉北才藝專場
 33. 工場所 倉北才藝專場
 34. 工場所 倉北才藝專場
 35. 工場所 倉北才藝專場
 36. 工場所 倉北才藝專場
 37. 工場所 倉北才藝專場
 38. 工場所 倉北才藝專場
 39. 工場所 倉北才藝專場
 40. 工場所 倉北才藝專場
 41. 工場所 倉北才藝專場
 42. 工場所 倉北才藝專場
 43. 工場所 倉北才藝專場
 44. 工場所 倉北才藝專場
 45. 工場所 倉北才藝專場
 46. 工場所 倉北才藝專場
 47. 工場所 倉北才藝專場
 48. 工場所 倉北才藝專場
 49. 工場所 倉北才藝專場
 50. 工場所 倉北才藝專場
 51. 工場所 倉北才藝專場
 52. 工場所 倉北才藝專場
 53. 工場所 倉北才藝專場
 54. 工場所 倉北才藝專場
 55. 工場所 倉北才藝專場
 56. 工場所 倉北才藝專場
 57. 工場所 倉北才藝專場
 58. 工場所 倉北才藝專場
 59. 工場所 倉北才藝專場
 60. 工場所 倉北才藝專場
 61. 工場所 倉北才藝專場
 62. 工場所 倉北才藝專場
 63. 工場所 倉北才藝專場
 64. 工場所 倉北才藝專場
 65. 工場所 倉北才藝專場
 66. 工場所 倉北才藝專場
 67. 工場所 倉北才藝專場
 68. 工場所 倉北才藝專場
 69. 工場所 倉北才藝專場
 70. 工場所 倉北才藝專場
 71. 工場所 倉北才藝專場
 72. 工場所 倉北才藝專場
 73. 工場所 倉北才藝專場
 74. 工場所 倉北才藝專場
 75. 工場所 倉北才藝專場
 76. 工場所 倉北才藝專場
 77. 工場所 倉北才藝專場
 78. 工場所 倉北才藝專場
 79. 工場所 倉北才藝專場
 80. 工場所 倉北才藝專場
 81. 工場所 倉北才藝專場
 82. 工場所 倉北才藝專場
 83. 工場所 倉北才藝專場
 84. 工場所 倉北才藝專場
 85. 工場所 倉北才藝專場
 86. 工場所 倉北才藝專場
 87. 工場所 倉北才藝專場
 88. 工場所 倉北才藝專場
 89. 工場所 倉北才藝專場
 90. 工場所 倉北才藝專場
 91. 工場所 倉北才藝專場
 92. 工場所 倉北才藝專場
 93. 工場所 倉北才藝專場
 94. 工場所 倉北才藝專場
 95. 工場所 倉北才藝專場
 96. 工場所 倉北才藝專場
 97. 工場所 倉北才藝專場
 98. 工場所 倉北才藝專場
 99. 工場所 倉北才藝專場
 100. 工場所 倉北才藝專場

0191

RA'-0108

0162

貯蔵倉庫

門司港	日本倉庫統制株式会社門司支社	384,790 平方呎	50 棟
	日本通運株式会社門司港支店	25,760 "	4 "
	九州海運局 (上屋倉庫)	114,200 "	5 "
	計	524,750 "	59 "

下関港	日本倉庫統制株式会社下関支社	121,765 "	18 "
	関門港運株式会社	3,500 "	1 "
	日本通運株式会社下関支社	4,585 "	3 "
	九州海運局 (上屋)	7,035 "	1 "
	下関市 (上屋)	4,340 "	2 "
	関門港運株式会社 (上屋)	23,895 "	5 "
	計	164,920 "	30 "

博多港	現倉庫	49,000 "	2 棟
	中央倉庫	1,260 "	3 "
	三井倉庫	560 "	1 "
	福岡市 (上屋倉庫)	232,715 "	20 "
	計	142,995 "	18 "
		381,910 "	44 "

以上、地域内ニ於ケル倉庫ヲ以テ要求面積以外ノモノハ
欄内官民用倉庫トシテ關係セラルベシ

2. 無蓋倉庫

既決ノモノトシテハ以下ノ世田谷小規模ノモノニシテリ 要求ニ依リ
適宜選擇提供ス

現存ノモノ
門司市

第四號上屋、屋外	10,535 平方呎
第五號上屋、屋外	89,460 平方呎
新濱町上屋、屋外	14,000 "
西海岸通野積場	17,500 "
計	131,495 平方呎

下関市

下関上屋、屋外	12,250 平方呎
下関埠頭野積場	31,500 "
築港野積場	17,500 "
計	61,250 平方呎

福岡市

海岸通野積場	21,000 平方呎
埠頭野積場	5,250 "
船溜野積場	21,000 "
計	47,250 平方呎

冷 凍 倉 庫

戸畑帝國水産	約47,000立方呎
下関帝國水産	46,000立方呎
林兼第一冷凍工場	361,000立方呎
林兼第二冷凍工場	960,000立方呎
下関水産取売	152,000立方呎

以上ハ進駐地域ニ於ケル全冷凍倉庫ノ收容能力ナルヲ以テ要
求数量以外ハ縣内官民用トシテ確保致シタシ

0195

輸 送

乗用車貨物自動車共要装自教提供可能ナリ

(参考) 乗用車 山口官村 護車 10 山口縣 40
 担ノ故障ノ場合ハ補 補修費 25 米分縣 5
 貨物自動車 40 担 護車 10 山口縣 40

但シ此ノ内乗用自動車貨物
自動車運送係本員全用ト
シ割安セラレタレ

0196

特定局	普通局	區別	郵便局	電信局	電話局	合計
	一六	電信局 電話局 電報局 電傳局 電送局 電報局 電傳局 電送局				
	五					
	一					
四三四	二	計				
				二		
					二	
四三四	二六					

P. 通信施設
 一郵便電信電話局数(福岡通信管理局管内、福岡縣)

A. 電信
 二主要地間電信電話連絡回線(福岡ヲ中心トスルモノ)

區間	回線数	通信方式	備考
福岡-東京 福岡-大阪 福岡-京都 福岡-下関 福岡-大分 福岡-熊本 福岡-佐賀 福岡-長崎 福岡-門司 福岡-小倉	三 二 二 二 二 二 二 二 二 二	印刷 音響二重 印刷 音響二重 印刷 音響二重 印刷 音響二重 印刷 音響二重 印刷 音響二重	

0197

RA'-0108

0167

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
 国立公文書館 アジア歴史資料センター
 Japan Center for Asian Historical Records
 National Archives of Japan

福	宮	熊	鹿	佐	長	明	水	八	八	福
岡	崎	本	嶋	賀	崎	司	倉	幡	畑	岡
一	一	四	二	五	五	八	二	八	四	一

下	大	福	區
岡	阪	岡	間
三	二	岡	岡
		線	線
		四	教

B 電話

台	京	山	若	福
北	成	山	藤	岡

0198

RA'-0108

0168

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

福岡 京城	福岡 釜山	福岡 佐原	福岡 若松	區 間
一	一	五	八	回 線 数

0199

RA'-0108

0169

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

0201

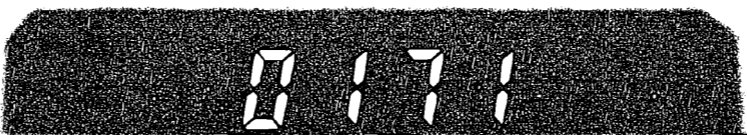
五、放送施設	電力	周波数	其他
能本 福岡 鹿島 大分 小倉 長崎 宮崎 佐賀 唐津 八幡	一〇〇 〇〇 〇〇 〇〇 五〇〇 五〇〇 五〇〇 五〇〇 五〇〇	七九〇Kc 九一〇 一〇五〇 七〇〇 七四〇 九二〇 六〇〇	機械ハ部分品ノ都合ニ依リ各局共改装ノモ 電力五〇〇Wニ変更予定 小放送設備アリ(補助的ノモノ)

聴取者数 七三三三三六名 (七月二十日現在)

0202

公共施設
本文ニ列挙セル設備ニハ要求ニ基ツク諸施設ヲ備ヘタルモノヲ極力選擇
セルモ生活慣習ノ差異戰災等ノ事情ヨリ中々困難ナリ
暖房施設ハ備ヘタルモノ全無ナシ

RA'-0108



0000
10月

建設資材及器機
5 努力
建設資材及器機
建設資材及器機

0203

0204

聯合進駐軍連絡委員会回報 第百九十九號 九月十九日

委員 殿 委員長

午後二時委員会ヲ召集
馬瀬總領事ヨリ長崎ニ於ケル進駐軍先遣隊トノ會見狀
況ニ付説明アリタリ(別紙)

- 一 決定
- 右委員会ニ於テ右記事項ヲ決定ス
- 1. 福岡縣聯合進駐軍連絡委員会規程
- 2. 今 連絡委員会事務分担
- 3. 進駐軍司令部ニ対スル希望事項(案本)
- 4. 十五日ヨリ十八日迄委員会ハ休會ス

RA'-0108

0172

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

RA'-0108

0173

先遣隊ト接衝狀況(細報ヲ附)
 湘軍(湘軍司令部官西部隊)江湖北將等ト面會目又
 我軍ヲ以テ司令部ニ充ツ。將校ニ士官ニ。兵五〇〇進駐。兵營
 營地ニ。但し常駐トシテ他方面移駐ス。病院用トシ
 土地ニ千坪。倉庫十坪。米軍八三三自リ上陸開始
 武器引渡ハ三三三ニ爲ス。性枝ヲ提供ス場ハ申請ヲ要ス
 知事ニ付テ左項ノ説明ヲ求ム
 水道ノ狀況(水質ノ分析結果共) 2. 港灣施設 3. 自防情況
 4. 電力ホルトノ量 電力ノ量 現在使用量 煖房ノ衛生狀態
 5. 自動車ノ現動數量 7. 委員分担
 湘軍ノ案内ヲ運シ露路營地ノ實地視察ヲ爲シ
 任務其他ノ要求ハ實際出来ル目ヲ定メテ返答スル可トス

0205

外交史料館

Diplomatic Archives of the Ministry of Foreign Affairs of Japan

国立公文書館 アジア歴史資料センター

Japan Center for Asian Historical Records

National Archives of Japan

福岡縣聯合進駐軍連絡委員會規程

第一條 聯合進駐軍ノ下關、福岡間ヘノ進駐ニ關スル諸要求ニ對處スル爲福岡縣廳内ニ福岡縣進駐軍連絡委員會（以下單ニ委員會ト稱ス）ヲ設置ス

第二條 委員會ハ委員長及委員若干名ヲ以テ組織ス

委員長ハ福岡縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ關係官公署ノ職員其ノ他必要アリト認ムル者ニ就キ委員長之ヲ囑ス

第三條 委員長ハ委員會ヲ總理ス

福岡縣内政部長タル委員ハ委員會ノ運営ニツキ委員長ヲ補佐スルモノトス

第四條 委員ハ聯合進駐軍ノ目的ヲ速ニ達成セシムル爲、積極的ニ相協力スルモノトス

第五條 委員ハ所屬官公署ヲ代表シ自己ノ同意ニ基ツク委員會ヲ決定事項ニ付實施ノ責任ヲ負ルモノトス

第六條 委員ハ當分ノ中午後二時迄ニ委員會室ニ出席スルモノトス但シ

情況ニヨリ時間ノ繰上ゲ變更ヲ行フコトアルベシ

委員ハ委員會ノ用務等ノ爲委員會室ニ出席スルコト能ハザル時ハ責任アル代表者ヲ出席セシムルモノトス

第七條 委員長ハ必要アリト認メタルキハ臨時委員トシテ所要ノ人ニ委員會ヘ出席ヲ要請スルコトアルズシ

第八條 委員ハ進駐軍ノ要求事項其ノ他關涉事項ニツキ單獨ニ處理シタル場合ハ次回ノ委員會ニ其ノ願未ヲ通報スルモノトス

第九條 福岡縣外務課長タル委員ハ委員會決定事項、進駐軍ノ要求、委員會トシテ各方面ヘノ希望、委員會ノ接受セル情報等ニ關シ回報ヲ

作製シ關係方面ニ送達スルモノトス

第十條 委員會ニ書記ヲ置キ庶務ヲ掌ル

附 則

規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス